

### 乙 建物其の他の工作物移轉

#### 第一章 整理前の建物

##### 第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は十五萬七千七百三坪八合二勺にして、之に所在する建物の總棟數は五千八百三十五棟此の延坪數九萬三千七百六十坪七合六勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は二十七坪三勺、同建物延坪數は十六坪七勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの五千七百二棟にして、爾餘の百三十三棟は換地位置の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉 棟數	延坪數	不要移轉 棟數	延坪數
木造建物	五、七五	九、六九 <sup>坪</sup> ・七七	五、六八	八七、八六 <sup>坪</sup> ・五八	二七	四、一〇七 <sup>坪</sup> ・一九
木骨コンクリート造二階建	一	一〇・〇〇	一	一〇・〇〇	一	一〇・〇〇
石造平家建	五	一五・〇〇	五	一五・〇〇	一	四七・九
煉瓦造平家建	九	五六・七〇	七	二八・七	二	四七・九
同二階建	六	二五・八七	四	八・〇〇	二	一五・六
同三階建	二	三・〇〇	二	三・〇〇	一	一四・二五
鐵骨煉瓦造平家建	二	一五・二五	一	五・〇〇	一	一四・二五
鐵骨造平家建	七	一六・〇〇	七	一六・〇〇	一	一四・二五

種別	棟數	延坪數	内	譯
鐵骨造二階建	三	三〇・五	三	三〇・五
鐵筋コンクリート造平家建	二	一四・七	二	一四・七
同三階建	二	一五・二五	二	一五・二五
土藏造二階建	一	六・〇〇	一	六・〇〇
計	五、八五	九三、七〇 <sup>坪</sup> ・七六	五、七三	八八、五三 <sup>坪</sup> ・七
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	九七・七	九四・七



同階建	二	一五・八七	二	一四六・二五
同階建	三	三三・〇〇	一	一
鐵骨煉瓦造平家建	二	一五・二五	一	一
鐵骨造平家建	七	一六・〇〇	一	一

鐵骨造二階建	三	三〇〇・五五	五	三〇〇・五五
鐵筋コンクリート造平家建	二	一四八・七〇	二	一四八・七〇
同階建	二	一五二・五五	一	一
土藏造二階建	一	六〇〇	一	四〇・五〇
計	五、八三五	九、七六〇・七六	五、七〇三	六、八、七三・七
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	七・七三	九〇・二七

要移轉建物五千七百二棟の用途を大別すれば住宅二千九百九十四棟の五割二分を最高とし、商店千五百九十九棟の二割八分之に次ぎ、以下小工場、工場、倉庫、飲食店等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	棟數	要移轉總棟數に對する百分比	轉建	
			延坪數	一棟平均坪數
官署	一八	〇・三三	三三九・一〇	一三・二八
學校	一一	〇・〇九	七三三・七	一四・七五
幼稚園	一	〇・〇二	二六・〇〇	一六・〇〇
神社	一	〇・〇二	一五・五〇	一五・五〇
寺院	二	〇・〇三	五・八三	五・八三
宗教會	一	〇・〇二	一五・〇〇	一五・〇〇
病院	二	〇・〇四	七二・三三	三六・六一
醫院	九	〇・〇六	一一・二五	一・二六
銀行	三	〇・〇五	一四・〇八	四・六九
醫藥會	三	〇・〇五	五七・八二	二八・五九
銀業	二	〇・〇四	五・六	二八・一九

第五十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



事務所	住宅	旅館	下宿	寄宿	商店	飲料店	劇場	觀劇場	席亭	娛樂場	質屋	浴室	理髮店	運送場	工場	小倉庫	倉庫	自動車	其他	
六	一	二	三	二	一	一	二	一	二	七	一	二	三	四	三	二	一	五	六	
一・〇七	五・五〇	〇・〇二	〇・〇四	〇・〇五	二六・〇四	〇・三〇	一・五二	〇・〇四	〇・〇二	〇・〇七	〇・〇二	〇・〇七	〇・〇二	〇・〇七	〇・〇二	〇・〇七	〇・〇二	〇・〇七	〇・〇二	
九一九・七三	四〇、〇七・七四	八四・七七	六八・三三	一四二・六七	三、九八・〇一	四三・五九	一、二八・五三	五二・〇六	一一〇・九二	一九四・〇五	八四・九七	一〇七・五七	一、〇七・五七	四三・九九	四三・四二	六、九二・七〇	五、三六・〇九	五、三六・〇九	二五〇・五九	三三〇・九〇
一五・〇八	一三・三六	八四・七七	三兩・一六	四七・五五	一四・五五	二五・四四	一四・七七	二六・五三	一〇・九二	四八・五三	一四・一六	二六・八九	五四・八七	二二・三三	二二・三五	三三・六一	一四・九六	二七・三三	五〇・二二	一三・二二

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、

改築、増築等の爲東京府知事に許可申請を爲したるもの建物千四百八十六棟、工作物二件、内許可せられたるもの建物千百十五棟、工作物二件、許可せられざりしもの建物三百七十一棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの建物二百六十八棟なり。







第五十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
鐵骨煉瓦造平家建	一	二	一	一	〇	一
鐵骨造平家建	一	二	一	一	〇	一
同二階建	一	二	一	一	〇	一
鐵筋コンクリート造平家建	一	二	一	一	〇	一
同三階建	一	二	一	一	〇	一
同三階建	一	二	一	一	〇	一
土藏造二階建	一	二	一	一	〇	一
計	九	一六・七	九	一六・七	〇	〇
要移轉總棟數に對する百分比	一六・七	五九・三	一六・七	五九・三	〇	〇

五四四

備考 本表中除却したる建物一棟は移轉命令後に於て他人の換地に無斷建築したるものにして、命令建物の移轉に支障となりたるを以て之を除却したるものなり。

前記計畫に依るときは要移轉建物五千七百二棟此の延坪數八萬八千七百九十二坪七合一勺は、整理後棟數に於て一棟を減じ坪數に於て一割六分五厘の縮少を來し七萬四千七百七十一坪四合一勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	一	五、六六	一	五、六六	〇	〇
木骨コンクリート造二階建	一	一〇〇〇	一	一〇〇〇	〇	〇
石造平家建	五	一五〇〇	五	一五〇〇	〇	〇
煉瓦造平家建	七	二八・七	七	二八・七	〇	〇
同二階建	四	八〇〇	四	八〇〇	〇	〇
同三階建	二	三三〇	二	三三〇	〇	〇
鐵骨煉瓦造平家建	一	五〇〇	一	五〇〇	〇	〇
計	二一	八七、八六・五坪	二一	七三、三〇・五坪	一	一四、五五・九坪

種別	棟數	延坪數	差引棟數	差引延坪數
鐵骨造平家建	七	一六・〇〇	七	一四・六
同二階建	三	三〇・五	三	三〇・六
鐵筋コンクリート造平家建	二	一四・七	二	一四・六
同三階建	一	四〇・五	一	四〇・六
土藏造二階建	一	六〇〇	一	六〇〇
計	一三	一〇五・七	一三	一〇五・八



煉瓦造平家建	二	八〇〇	二五〇	〇・五	三・三
同階家建	四	八〇〇	八〇〇	〇・五	〇・五
同三階家建	二	三〇〇	三〇〇	〇・五	〇・五
同瓦造平家建	一	五〇〇	五〇〇	〇・五	〇・五
鐵骨煉瓦造平家建	一	五〇〇	五〇〇	〇・五	〇・五

鐵骨造平家建	七	一六・〇〇	一七〇・元	一四・三
同二階家建	三	三〇・五	二九・五	三・六
鐵筋コンクリート造平家建	二	一四・七	一四・七	
同三階家建	一	四〇・五	四〇・五	
同蔵造二階家建	一	六〇〇	六〇〇	
計	五、七〇三	八八、七二・七	五、七〇一	一四、六二・〇

建物の移轉實施期間を大正十五年三月より昭和三年十二月迄の二年十月とし、大正十五年に於て千三百五十七棟、昭和二年に於て三千三百七十六棟、同三年に於て九百六十九棟の工事を完了することに豫定したり。

### 第三章 移轉手續

#### 第一節 移轉命令

大正十四年十二月二十一日第一次移轉命令として南堅河岸なる第二十六移轉群建物四十棟に對し移轉命令二十七通、同通知二十四通を發し、爾來引續き發令に努め昭和三年三月三十日東森下町の一部第二百二十五移轉群の發令を最後とし、要移轉建物五千七百二棟の内協議並直轄移轉に依る百十棟を除きたる五千五百九十二棟及工作物に對し移轉命令五千四百八十五通、同通知四千九百六十七通を發し茲に全部の發令を終へたり。

#### 第二節 協議並直轄移轉

第五十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



### 第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物百棟、工作物四十六件あり、内建物三十三棟は官公署の所有にして事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物六十七棟、工作物四十六件は民有にして、内建物二十一棟は東京市深川尋常小學校々舎新築の爲急速移轉を要したるもの、他の建物四十六棟及工作物四十六件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして其の敷地が橋臺地々揚に伴ひ宅地造成を要したる爲更に本手續に依り二重移轉を爲したるもの四十二棟あり、之を橋梁別に示せば左の如し。

千歳橋一棟 鹽原橋一棟 西深川橋二棟 汐時橋七棟 北の橋十二棟 猿子橋六棟 細川橋六棟 大久保橋一棟 彌勒橋三棟 新大橋三棟

### 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物十棟あり、内八棟は官公署の所有にして其の希望に依り直轄施行を爲したるもの、他の二棟は民有にして移轉命令發令後に於て他人の換地に無斷建設し命令建物の移轉に支障となりたるを以て所有者に對し撤去方交渉したるも應ぜざりしに因るものなり。

## 第四章 損害補償

### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年一月建物及工作物の新築費並不動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定

を爲し同年二月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年四月迄に終了し又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること八十九回(變更案の決定を含む)にして同三年十二月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと三回に及び同四年五月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては調査算定すると共に關係者と



第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年一月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定

を爲し同年二月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年四月迄に終了し又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること八十九回(變更案の決定を含む)にして同三年十二月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと三回に及び同四年五月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其他移轉料總額は左表の如く三百六十七萬五千七百七十四圓にして、内國負擔額五十八萬三千七百九十五圓八十六錢、市負擔額三百八萬六千七百七十八圓十四錢なり。

種別	建物棟數	延坪數	補償金	内訳	
				區分	金額
一般移轉	五、七〇二	八、七九二 <sup>坪</sup>	三、五三、一八七 <sup>円</sup>	建物移轉料 工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費	二、四九、四〇五 <sup>円</sup> 四六、〇七・九 一一、九八・一〇 二八、六七・九 三五九、六七・六 二四一、五〇・三 三、六一、八七・八
橋臺地々揚に依る一重移轉	四三	一、〇五三・七	一九、三六・八二	建物移轉料其他	一九、三六・八二
合計	五、七四四	八、八四五・八	三、七〇、五五四・〇〇		三、七〇、五五四・〇〇
					四〇・八五

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。



種別	棟數	延坪數	一棟當延坪數	新築費	坪當單價
木造建物	五、六五八	八七、八六二・五 <sup>坪</sup>	一五・五二 <sup>坪</sup>	六、二四、五六・四 <sup>円</sup>	六九・五 <sup>円</sup>
木骨コンクリート造二階建	一	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一、九五・〇〇	一九五・〇〇
石造平家建	五	二五・〇〇	五・〇〇	五、四九・〇〇	二一六・三六
煉瓦造平家建	七	一八・七一	六・九八	三六、四四・一七	三〇六・九一
同二階建	四	八・〇〇	二・〇〇	二二、三九・四〇	一五三・〇一
同三階建	二	三三・〇〇	一六・五〇	六、七四・四〇	二〇三・一六
鐵骨煉瓦造平家建	一	五・〇〇	五・〇〇	五九五・〇〇	一九〇・〇〇
鐵骨造平家建	七	一六・〇〇	二・三二	一五、四五・二五	九五・三九
同二階建	三	三〇・〇〇	一〇・〇〇	三、四九・二五	一〇四・六八
鐵筋コンクリート造平家建	二	一四・七〇	七・三六	一九、九二・三五	二〇一・五四
同三階建	一	四〇・五〇	四〇・五〇	七、四九・二五	一八五・〇〇
土藏造二階建物	一	六・〇〇	六・〇〇	一、七二・一六	二八・六〇
計	五、七〇三	八六、七三二・七	一五・五七	八、〇〇〇、三三・三三	九〇・二〇

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年二月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し昭和三年十月を以て終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり之が變更通知は昭和四年五月に及びたり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十五年三月より之

が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額三百六十六萬八千二百九十八圓五十九錢にして、内國負擔額五十八萬三千七百九十五圓八十六錢、市負擔額三百八萬四千五百二圓七十三錢なり。











十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
五、六五四	五、六五七	五、六六一	五、六六六	一〇	二七五	一六三	一五五	五、六〇一
二五	一六	二七	一六	二七	一六	二七	一六	二七
五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一	五、〇〇一
二七	一六	二七	一六	二七	一六	二七	一六	二七
四、七三三	四、八八九	五、一九〇	五、三六六	三〇一	二五	一六	二七	四〇
二八	一六	二七	一六	二七	一六	二七	一六	二七
二、八五一	三、〇二	三、二四四	三、五四五	三〇一	二五	一六	二七	四〇

昭和三年		昭和四年	
四月	五月	六月	七月
二	三	四	五
五、六六六	五、六七二	五、六七八	五、六八七
一五	六	二	六
五、六〇四	五、六七〇	五、六七六	五、六八七
六	七	八	九
五、三七八	五、四六五	五、四四〇	五、六〇四
一八	三三	三七	四六
三、七六	四、〇四九	四、三六六	四、八三二

第二節 代 行

移轉命令を受け指定期限を経過し現場係員より工事實施方に付、屢次誘導督勵を爲すも容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員四百二十六人、建物五百十三棟ありたり。  
前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲代行執行を爲したる人員八人、建物八棟あり、其の主なる原因は全く義務者の怠慢に因るもの七人七棟、借地權に關する係争に依り義務者自ら移轉すること困難なりしに因るもの一人一棟なり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、大正十五年五月松井町一丁目十三番に移動式住宅二十四棟、物置八棟を設置し同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用

第五十二地區 乙 建物其の他の工作物移轉



希望者増加したるを順次増設を爲し工事終了の直前迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置		撤去		住宅	期	住宅	間	住		宅		容	
	住宅	物置	年月	年月	住宅	物置					世帶數	一棟當世帶數	人員	一棟當人員數	世帶數	一棟當人員數
本所區松井町一丁目十三番	二四	八	大正二五、五	昭和三、一	自大正二五、五	至昭和三、一	同	上	二〇九	八・七	一、〇二六	四二・七五	六	八・六二		
深川區東元町十五番	二三	七	大正二五、六	昭和三、一	自昭和二五、六	至昭和二、二	同	上	一五七	七・四	七・八	五三・八	五	七・四三		
同 西六間堀町十五番	六	八	昭和二、四	昭和二、〇	自昭和二、四	至昭和二、〇	同	上	二元	四・八三	二五	二〇・八三	三	三・七五		
同 八名川町四十番	七	三	昭和二、六	昭和三、〇	自昭和二、六	至昭和三、〇	同	上	五	七・四	二・八	四・一八	二	八・六七		
本所區松井町一丁目道路上	一三	一	昭和二、七	昭和四、三	自昭和二、七	至昭和四、三	同	上	八	六・六	四二	三三・九二	一	一		
同 千歳町河岸道路上	五	一	昭和三、四	昭和四、二	自昭和三、四	至昭和四、二	同	上	九	一・八〇	五	二・二〇	一	一		
深川區新安宅町道路上	二	一	昭和三、四	昭和四、二	自昭和三、四	至昭和四、二	同	上	四	四・〇〇	二〇	一八・二七	一	一		
同 東森下町六十一番	三	一七	昭和三、六	昭和四、三	自昭和三、六	至昭和四、三	同	上	一八五	五・六〇	九三	二八・八	五	三・〇〇		
計	二二	四三							七三	六・六	三、八六	三三・五	三	五・三〇		

第四節 宅地造成

本地區は地勢一般に低濕にして従前に比し低地を換地として指定せられたるものあり、且地區の中部に六間堀川、周圍に隅田川、豎川、五間堀川、小名木川ありて之等河川の護岸修築或は繼足工事に伴ひ宅地造成を要せる箇所尠からず、工事件數九十四件二百一十一箇所及び、而して工事種別は盛土工最











本地區に於て整理を要したる墓地は本市所有元寺院境内共葬墓地四筆にして此の總面積二千六十八坪三合二勺にして、之に所在する墓碑三千二百十五基なり。  
 前記墓地の内一般宅地の換地又は公共用地となりたる面積は四百八坪三合にして、之に所在し移轉を要したる墓碑は八百十三基なり。

昭和二年七月より墓碑其の他の現地調査に著手、其の調査に基き移轉料の算定を爲し、同年八月より十一月迄の間に順次墓地管理者と各協議を遂げ、同二年九月より同三年三月迄に夫々移轉するの契約を締結したり、之に要したる移轉料の總額は一萬三千七百七十六圓五錢にして全部本市負擔に屬し、其の支拂は同三年七月迄に全部之を了したり。

前記契約及改葬豫定年月日並移轉料を管理寺院別に示せば左の如し。

管理寺院名	要移轉 墓碑基數		契約年月日	移轉完了 豫定年月日	移轉料				
	同上 靈數	同上			墳墓	工作物	雜費	計	一基當
龍光院	五四	二、六三〇	昭和二、一〇、一〇	昭和二、二、三〇	七、六六・元	四七・二五	九一・四一	九、〇九六・九四	一八・〇五
要津寺	二〇	四六三	昭和二、二、二二	昭和三、三、二五	二、六八・四〇	—	五三・六六	三、一〇二・〇八	一五・二五
西光寺	九	二二三	昭和二、八、二三	昭和二、九、三〇	一、一九・二〇	一〇六・〇〇	一七・八三	一、四七七・〇三	一四・九二
計	八三	三、三三四			二、四八六・八八	五五・三五	一、七〇三・九一	一三、七六六・〇五	一六・三五

墳墓の移轉は前表に示すが如く昭和三年三月迄に完了する豫定なりしが各寺院共其の管理墓地には相當無縁の墳墓を有し之が移轉手續に意外の日子を要し、剩へ移轉に際し打續く雨天に遭遇したる爲豫定の進捗を見る能はず遂に龍光院、要津寺管理墓地に於て約二箇月、西光寺管理墓地に於て約十箇月の遅延を來し昭和三年七月迄に漸く移轉を了したり、尙以上墳墓の大部分は各寺院の特設墓地に移轉したり。











第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理  
年度別工事進捗状況

五五八

種別	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區	電柱 六〇本	三、七三三・三〇	電柱 六〇本	三、七三三・三〇	電柱 一七一本	二、〇七二・二〇	電柱 五本	三、八六一・九四	電柱 七本	四、三二一・三三	電柱 三〇本	一八、七五三・六一	計
管線路	八七三・三〇間	三、八三三・三六	四本	七、五五五・六六	一五、八〇五・一〇	五、一二三・五三	一、六四八・七〇	四、九一〇・四〇	一、九三〇・六九	一、九三〇・六九	二、六八四・七〇	一、九三〇・六九	
應急	管線路				電柱 六本	五、四四九・九七	管線路 六四〇間	三、六八四・〇〇	管線路 二〇〇間	三、三九二・九七	管線路 四本	三、二〇〇・〇〇	計
其他	電柱 一七本	三、〇〇六・〇〇	電柱 一七本	三、〇〇六・〇〇	電柱 二四八間	二、四九九・〇〇	電柱 二〇ケ所	六、六八四・〇〇	電柱 二〇ケ所	三、九二九・九七	電柱 四ケ所	三、七九六・〇〇	
整理	管線路				管線路 一三本	二、七四九・九五	管線路 五本	一、三六八・四〇	管線路 三本	四、九一〇・四〇	管線路 六本	二、〇四七・〇〇	計
假本	其他				其他 二ケ所	三、九一〇・〇〇	其他 二ケ所	一、六六九・九九	其他 五ケ所	三、〇四八・二二	其他 一、七四八・一五	一、八八三・三四	
進歩	管線路				管線路 二〇間	二、一七四・六四	管線路 二ケ所	一、三六七・四一	管線路 五ケ所	三、〇四八・二二	管線路 六本	二、〇四七・〇〇	計
歩合	其他				其他 二ケ所	三、〇一一・〇〇	其他 二ケ所	二、六八一・四一	其他 五ケ所	五、一一〇・三三	其他 八ケ所	三、五〇一・〇〇	
合計	三件		八三三・二〇件	一、三九七・〇五	五、三七九・〇〇	二、四七九・七〇	二、九三三・八五	八三、七五七・〇一	五、三五七・六八	七、七九九・六六	六、〇三三・二二	二、九一八・〇〇	計
合計	五	二〇、〇四〇・九一	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	二、〇六五・三三	
進歩歩合%		一											100

國市負擔區分

種別 水道 東電 瓦斯 斯參謀本部 計

一地區集計	九、三四四・〇〇	二、八五〇・一〇	四、四〇〇・〇六	一六、五九四・一六
國負擔	六、五三二・六九	三、二一七・二二	三、二一七・二二	一三、六九〇・五四
市負擔	二、八〇一・三〇	一、三六三・三九	一、一八二・八四	五、三四四・〇〇
應急整理一工事	一、六八六・三七	一、三六三・三九	二、九二六・八	三、二一七・二二
市負擔	五、三八七・四四	一、八二五・三六	五、四五五・八五	一六、五九四・一六
假本整理		一、七〇・五〇		一、七〇・五〇
市負擔				
計				



種
別
水
道
東
電
瓦
斯
參謀本部
計

種別	大正五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		支拂未済	計
	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔		
一地區集計	九、三、四〇・〇〇	二、八五〇・一〇	二〇、九〇〇・七三	三、二七〇・二二	四、四〇〇・〇六	一六、五九四・一六	一三、六九〇・五〇	一三、二八四・七〇	三、一五二・五三	一九、一八六・四五	一六、五九四・一六	一三、二八四・七〇
應急整理一工事	一、六八六・三七	一、三六六・三九	一、八二五・二六	五、五五五・八五	八、〇〇六・四五	一七〇・五〇	一、六八六・三七	一、三六六・三九	一、八二五・二六	五、五五五・八五	一、六八六・三七	一、三六六・三九
假本整理	五、三八七・四四	一、五二二・九四	五、九二二・九四	四、四七二・八八	五、一六九・九三	一、七〇・五〇	五、三八七・四四	一、五二二・九四	五、九二二・九四	四、四七二・八八	一、七〇・五〇	五、三八七・四四
私線有	一、一八三・三六	二、五〇六・七三	二、三三〇・二三	三、〇四〇・五九	三、三三三・五〇	三、九六二・九四	一、一八三・三六	二、五〇六・七三	二、三三〇・二三	三、〇四〇・五九	三、九六二・九四	一、一八三・三六
管私	六、七八八・八五	七、九七二・二二	八、四六八・六八	八、五九二・四〇	八、一五九・四〇	二、九〇・五〇	六、七八八・八五	七、九七二・二二	八、四六八・六八	八、五九二・四〇	二、九〇・五〇	六、七八八・八五
現金補償	七、九七二・二二	三、六九六・二〇	五、九七一・五九	五、三三四・八四	五、〇六二・九三	一、八二五・二六	七、九七二・二二	三、六九六・二〇	五、九七一・五九	五、三三四・八四	五、〇六二・九三	一、八二五・二六
人拂	三、六九六・二〇	四、五五五・五三	四、八六八・六八	四、八三三・五三	四、四二二・六八	二、九〇・五〇	三、六九六・二〇	四、五五五・五三	四、八六八・六八	四、八三三・五三	二、九〇・五〇	三、六九六・二〇
計	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇
道路後修	四、五五五・五三	八七・九七	二、三三八・七九	二、六五九・四四	四、四二二・六八	一、七〇・五〇	四、五五五・五三	八七・九七	二、三三八・七九	二、六五九・四四	一、七〇・五〇	四、五五五・五三
市負擔	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇
國負擔	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇
合計	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇	一三、〇〇〇・二〇

年度別工事費支拂進捗状況

種別	大正五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済	計
一地區集計	一	三、三六・八二	一、五七・〇二	一、三六・四二	三、二六	一	一、一八、二六四・七〇
應急整理一工事	一	一	一、五七・〇二	一、三六・四二	三、二六	一	三、二五二・五三

第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







工事施行中設計變更を爲したる件數五件ありたる結果、電柱に於て六本増加したるも管線路に於て二百四十五間六減少したる爲、工事費に於て一萬七千八百二十七圓十五錢の減額を爲せり、其の設計變更

狀況を示せば左の如し。

種別	電柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	
當初契約	二九七本	三,三〇〇.〇〇	一九,五五二.〇〇	三,四九二.〇〇	一五六,二二〇.〇〇
設計變更後(精算)	三〇三	一八,七五五.〇〇	一九,三六六.〇〇	二九,五二〇.〇〇	
差引増△減	六	△二,四五五.〇〇	△二四五.〇〇	△一五,三七〇.〇〇	△一七,八三七.五〇

尙工事竣支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計
	數量	金額	數量	金額	
大正五年	六〇本	三,七三三.〇〇	八三七.〇〇	三,八三三.〇〇	七,五五五.五八
昭和元年	一七六	二,〇七二.〇〇	三,六五一.〇〇	一五,八五二.〇〇	
昭和二年	五八	三,五八〇.〇〇	九,四七二.九〇	五,一三三.五八	五四,七五五.〇〇
昭和三年	七	四三三.〇〇	五,三四一.六〇	四,七七〇.〇七	
昭和四年	三〇三	一八,七五五.〇〇	一九,〇六六.九〇	二九,五二〇.〇〇	一三八,二八四.七〇
計	三〇三	一八,七五五.〇〇	一九,〇六六.九〇	二九,五二〇.〇〇	

支拂狀況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額		
昭和三年	八,〇六二.五〇	五九,二六〇.七〇	六七,二七三.三〇	四九	四九	
計	八,〇六二.五〇	五九,二六〇.七〇	六七,二七三.三〇	四九		

第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和四年	三、三〇三・二	一四、一三三・五	二七、五六・七	一〇
昭和五年	五、二九・七〇	三八、三五〇・九	四三、五八〇・六	三
計	一六、五九四・二六	二二、六九〇・四	一三八、二八四・七	一〇〇

五六二

負擔別對照

負擔區分	潰地面積	比率%	市水道局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
			契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
幹線街路費	三、五五〇・〇〇	一一	九、〇八三・八三	八、五五三・三四	三、〇九二・二五	二、六二二・五九	四、九九六・三三	四、〇三三・三九	一七、一七三・三〇	一五、二二一・三三
運河費	四四六・四五	一	八二五・八〇	七七八・六六	二八・一一	三二・五一	四五四・二〇	三六六・六七	一、五六一・一一	一、三八二・八四
國負擔計	三、九九六・四五	一一	九、九〇九・六三	九、三三四・〇〇	三、一一三・三六	二、八五三・一〇	五、四四〇・四四	四、四〇〇・〇六	一八、七三三・四一	一六、五〇四・一六
補助線街路費	五、六三三・〇〇	一七	一四、〇三八・六六	一三、二七七・三四	四、七七八・九三	四、〇七六・六四	七、七二二・四四	六、二三三・四三	二六、五九〇・三三	二三、五〇八・四〇
土地整理費	二、七四〇・九三	六	五、五三三・〇一	五、三九二・〇二	一八、五五三・四八	一五、六七五・五五	二九、九七七・三四	二四、二〇〇・三四	一〇三、〇三三・八三	九一、二六七・九一
小公園費	一、八〇〇・二三	五	四、二九〇・一一	三、八九三・三三	一、四五五・五六	一、八七・五四	二、二七二・一〇	一、八三三・三六	七、八〇五・五八	六、九四三・三三
市負擔計	二九、一七四・一六	八	八七、七〇〇・六六	八五、三三三・六九	二〇、九〇〇・七三	一八、九〇〇・七三	三九、九〇〇・七三	三三、三三七・三三	一三〇、七三三・八三	一二六、六〇三・四〇
合計	三三、一一三・六六	一〇〇	一〇〇、三、〇〇三・三三	九七、八六六・六九	二八、二二二・三三	二六、七七七・七七	五〇、九〇〇・七三	四三、〇〇〇・三三	一五〇、八六六・六九	一四三、一〇六・九一

補償金對照

工種	市水道局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	四四、七五二・八五	三五、六三三・六九	二、一四九・三三	二、〇〇〇・〇六	三四、五六一・七三	三〇、〇三二・八五	一〇〇、四六三・九〇	八六、〇六六・九三
過不足分(一致せざる部分)	二七、八九五・一四	三〇、七五五・四四	四、七八三・七三	三、二九三・一一	三、三七四・八五	二、八九六・五四	三六、〇〇三・七一	三六、九六五・〇九

果計する分	小計		附帶工事分(假工事を含む)		補償額計	
	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額	契約金額	精算金額
果計する分	四、七〇七・五九	二、五八九・六九	六三・三六	五六・一八	三、三四四・五三	三、三三七・二二
小計	七、三三三・六六	六、三六八・八二	二五、九六〇・〇〇	二二、三三九・七七	四、一五二・二二	三、二六六・五二
附帶工事分(假工事を含む)	五、三三四・七三	八、五三七・八七	二、一四九・九三	三八・一一六	四、二九一・〇〇	三、〇六七
補償額計	八、二八〇・三三	七、八六六・六九	二六、一一三・三三	二二、七〇〇・八三	四、四四三・二二	三、六三三・二八
					二、四六八・七六	二、四六八・七六
					九、二九九・七〇	九、二九九・七〇
					三六、二八四・七〇	三六、二八四・七〇



既設工物と整理工 作物と一致せる部分 過不足分(一致せざる部分)	契約金額 四、七五二・八五 二七、八九五・一四	精算金額 三五、六三六・九 三〇、七五五・四四	契約金額 二、一四九・三三 四、七八三・七三	精算金額 二、〇三〇・三六 三、二九三・一一	契約金額 三、五六一・七三 三、三七四・八五	精算金額 三、〇三三・八五 二、八九六・五四	契約金額 一〇〇、四六三・九〇 三六、〇五三・七一	精算金額 八六、〇六六・九二 三六、九六五・〇九
----------------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------------------	--------------------------------

果計する分	四、七〇七・五九	二、五九九・六九	六三・三六	五六一・一八	三、五四・五三	三、三三七・二二	八、二五・四八	六、〇〇二・九九
小計	七〇、三三六・六	六、三三八・八二	二五、九六・四〇	三三、三九六・六	四、五二・二二	三六、八六・五	一四、六四・〇九	二八、九八五・〇〇
附帶工事分(假工事を含む)	五、二四・七三	八、五三七・八七	二、一四・九三	三八・一六	四、二九・二〇	三〇・六七	二、四六・七六	九、二九・七〇
補償額計	八、二八〇・三	七、八六六・六	二六、二二・三	三三、七〇・八	四、四〇・三	三六、五七・八	二五、二二・八五	三六、二八四・七

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數六十二件整理費三千二百五十二圓五十二錢全部市負擔にして、大正十五年九月二十四日東京電燈株式會社關係工物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局四十五件金額千六百八十六圓三十七錢、東京電燈株式會社十四件金額千三百六十六圓三十九錢、東京瓦斯株式會社二件金額二十九圓二十六錢、參謀本部一件金額百七十圓五十錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工種別

種別	水道		電		瓦斯		參謀本部		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
道路工事	管線路	一〇一・四 ヶ所	六六・六五						一〇八・八 ヶ所	六五五・九一
	其他	三〇	一、〇五九・七二						三〇	一、〇五九・七二
建物移轉	電柱		一、六六六・七							一、七五五・三三
	其他								一ヶ所	二九・八〇
計									一七〇・五〇	二七二・一六

第五十二地區 丙 地下埋設物其他工物整理







支拂狀況	年	度	市	負	擔	步	合	%
------	---	---	---	---	---	---	---	---

昭	昭	昭	昭	計
和	和	和	和	
五	四	三	二	
年	年	年	年	
				三三六・六三
				一、五七〇・〇三
				一、三三六・四三
				三、二五三・五三
				一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數六十五件整理費二萬九千八百八十六圓四十五錢全部市負擔にして、昭和二年四月二十三日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局二件金額五千三百八十七圓四十四錢、東京電燈株式會社五十七件金額一萬八千二百五十三圓十六錢、東京瓦斯株式會社六件金額五千五百四十五圓八十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		東電		瓦斯		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
電柱		円	三六七本	一五、五九〇・〇			一五、五九〇・〇
管線			二四・七間	五四・五二			五四・五二
其他			五ヶ所	五五・六六			五五・六六
交通支障							
計				一五、八二九・二七			一五、八二九・二七

第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

五六五



















市土木局 下水課	昭和二、五、三	昭和三、五、一	昭和四、三、一	九〇九	二、一五	三、〇六
市電氣局	昭和二、八、三	昭和三、九、〇	昭和四、三、一	一〇二	二、一五	三、〇六
東京電燈株式會社	昭和二、六、七	昭和二、七、二	昭和四、三、二	一〇二	二、一五	三、〇六
東京瓦斯株式會社	昭和二、五、八	昭和二、五、二〇	昭和四、二、三	九〇九	二、一五	三、〇六

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千三百七十四件其の延長一萬六千五百七間三八、掘鑿面坪五千五十坪五十一にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百六十四件其の延長八千二百二十六間五、掘鑿面坪二千四百十二坪七三、東京電燈株式會社百一件其の延長千四百四十二間五五、掘鑿面坪五百八十坪二七、東京瓦斯株式會社九百九件其の延長六千九百三十八間三三、掘鑿面坪二千五十七坪五一なり、尙之を類別すれば大掘鑿百三十七件其の延長一萬三千五百五十二間〇五、掘鑿面坪四千四百四十七坪六、小掘鑿千二百三十七件其の延長三千三百五十五間三三、掘鑿面坪九百二坪九一なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	件數	延長	件數	延長
昭和二年	市水道局	六	九九・二〇	一五	七五・八四	一五	一、七六・〇四
	東京電燈株式會社	五	四九・二〇	一	一	五	四九・二〇
	東京瓦斯株式會社	七	五二・二〇	二八	一、七三・三〇	三五	八九・五〇
昭和三年	市水道局	八	一、〇三・五〇	四〇	九一・五三	四八	二、二五・〇三
	東京電燈株式會社	三	六三・二〇	一	一	三	六三・二〇
	東京瓦斯株式會社	六	三〇・八〇	一五	一、七六・〇四	二一	二、〇六・八四
昭和四年	市水道局	四	二七三・三〇	五三	八七六・〇	五七	一、〇九〇・九〇
	東京電燈株式會社	四	二、二〇・〇〇	七三	一、七三・三〇	七七	三、九三・三〇
	東京瓦斯株式會社	八	三、七五・〇〇	四三	三、九六・四〇	五一	四、一五・四〇
計	市水道局	一七	三、七〇・二五	一〇七	一、五三・四	一二四	三、七〇・二五
	東京電燈株式會社	一〇	一、〇六・二〇	八七	一、七三・三〇	九七	二、七九・五〇
	東京瓦斯株式會社	二六	八、九六・五〇	一〇七	四、七三・〇七	一三三	一三、七〇・五七

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	件數	延長	件數	延長
昭和二年	市水道局	六	九九・二〇	一五	七五・八四	一五	一、七六・〇四
	東京電燈株式會社	五	四九・二〇	一	一	五	四九・二〇
	東京瓦斯株式會社	七	五二・二〇	二八	一、七三・三〇	三五	八九・五〇
昭和三年	市水道局	八	一、〇三・五〇	四〇	九一・五三	四八	二、二五・〇三
	東京電燈株式會社	三	六三・二〇	一	一	三	六三・二〇
	東京瓦斯株式會社	六	三〇・八〇	一五	一、七六・〇四	二一	二、〇六・八四
昭和四年	市水道局	四	二七三・三〇	五三	八七六・〇	五七	一、〇九〇・九〇
	東京電燈株式會社	四	二、二〇・〇〇	七三	一、七三・三〇	七七	三、九三・三〇
	東京瓦斯株式會社	八	三、七五・〇〇	四三	三、九六・四〇	五一	四、一五・四〇
計	市水道局	一七	三、七〇・二五	一〇七	一、五三・四	一二四	三、七〇・二五
	東京電燈株式會社	一〇	一、〇六・二〇	八七	一、七三・三〇	九七	二、七九・五〇
	東京瓦斯株式會社	二六	八、九六・五〇	一〇七	四、七三・〇七	一三三	一三、七〇・五七



昭和二年	東京電燈株式會社		昭和三年	東京電燈株式會社	
	件數	金額		件數	金額
計	五	四九・〇〇	計	七	五二・〇〇
市水道局	一	一七・五〇	市水道局	一	二九・三〇
東京電燈株式會社	四	三一・五〇	東京電燈株式會社	六	二二・七〇
計	五	四九・〇〇	計	七	五二・〇〇
市水道局	一	一七・五〇	市水道局	一	二九・三〇
東京電燈株式會社	四	三一・五〇	東京電燈株式會社	六	二二・七〇

昭和四年	東京電燈株式會社		昭和五年	東京電燈株式會社	
	件數	金額		件數	金額
計	四	二七三・三〇	計	五	二八七・六〇
市水道局	三	二一〇・〇〇	市水道局	四	一七九・二〇
東京電燈株式會社	一	六三・三〇	東京電燈株式會社	一	一〇八・四〇
計	四	二七三・三〇	計	五	二八七・六〇
市水道局	三	二一〇・〇〇	市水道局	四	一七九・二〇
東京電燈株式會社	一	六三・三〇	東京電燈株式會社	一	一〇八・四〇

前記要求工事千三百七十四件の内道路後修を要したるもの七百五十三件金額九千六百八十圓十七錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	金額		
市水道局	二	八〇・五九	一	一〇七・三六	一	二〇八・二九	—	—	二〇二・四五
東京電燈株式會社	一	四〇・六八	五	六三・三〇	七	七三・〇六	六	六一・四五	一七二・九七
東京瓦斯株式會社	一	三六・八八	七	七四・二六	三	二九・六四	—	—	一〇六・七八
計	四	一五八・一五	三	一四四・九二	一	一〇七・〇九	六	六一・四五	三八一・七〇

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は二千五百九十八件其の延長一萬六千六百六十六間四五、掘鑿面積六千五百四坪一六にして、之を事業者別に見るときは市水道局三百七十四件其の延長二千四百九十八間九四、

第五十二地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



掘鑿面坪六百六十二坪一二、市土木局下水課九件其の延長二千二百四十四間二五、掘鑿面坪二千三百六十八坪六四、市電氣局二件其の延長五百五十五間三、掘鑿面坪百八十三坪二四、東京電燈株式會社五十四件其の延長七百四十七間一三、掘鑿面坪二百二十四坪一三、東京瓦斯株式會社二千五百五十九件其の延長一萬六百二十間八三、掘鑿面坪三千六十六坪〇三なり、尙之を類別すれば大掘鑿百三十四件其の延長九千四百十九間〇八、掘鑿面坪四千四百二十六坪五九、小掘鑿二千四百六十四件其の延長七千二百四十七間三七、掘鑿面坪二千七十七坪五七なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	大掘鑿		小掘鑿		計		
	件數	延長	件數	延長	件數	延長	
昭和二年	市水道局	一	七	七	一	七	
	東京電燈株式會社	七	一五・一五	一	二六・二三	八	二一・二二
	東京瓦斯株式會社	一	三六・〇〇	一	四二・三七	二	七八・〇〇
	計	八	五二・一五	九	一〇七・五七	一七	一五九・七二
	市水道局	五	一九・八〇	二	九六・二四	七	一一六・〇四
	市土木局下水課	二	四九・六一	一	三九・〇六	三	八八・六六
	市電氣局	二	五五・三〇	一	四九・六一	三	一〇四・六一
	東京電燈株式會社	一	二六・四三	一	二六・四三	二	五二・八六
	東京瓦斯株式會社	一	二六・四三	一	二六・四三	二	五二・八六
	計	二七	一八三・二四	二	七三・三	二九	二五六・五七
昭和三年	市水道局	三	一三・四〇	一	二五・〇三	四	三八・四三
	市土木局下水課	三	三三・六〇	一	四七・〇九	四	八〇・六九
	市電氣局	一	二八・四三	一	二八・四三	二	五六・八六
	東京電燈株式會社	一	二八・四三	一	二八・四三	二	五六・八六
	東京瓦斯株式會社	一	二八・四三	一	二八・四三	二	五六・八六
	計	三	二八・四三	二	二八・四三	五	五六・八六
	市水道局	六	一六・三〇	一	一五・七	七	三一・〇七
	市土木局下水課	七	七一・六〇	一	九五・四八	八	一六七・〇八
	東京電燈株式會社	三〇	四六三・五五	一	一三・二三	三一	四七六・七八
	東京瓦斯株式會社	二	一〇・七五	一	一〇・七五	三	二一・五〇
計	四六	六〇三・一五	五	一四一・二七	五一	七四四・四二	
昭和四年	市水道局	一	三六・一〇	一	二二・三三	二	五八・四三
	市土木局下水課	九	二四・二五	一	一八・八	一〇	四三・〇五
	市電氣局	二	五五・三〇	一	一八・二四	三	七三・五四
	東京電燈株式會社	一	一八・二四	一	一八・二四	二	三六・四八
	東京瓦斯株式會社	一	一八・二四	一	一八・二四	二	三六・四八
	計	一四	一一二・一三	四	五五・〇九	一八	一六七・二二
	市水道局	一	三六・一〇	一	二二・三三	二	五八・四三
	市土木局下水課	九	二四・二五	一	一八・八	一〇	四三・〇五
	市電氣局	二	五五・三〇	一	一八・二四	三	七三・五四
	東京電燈株式會社	一	一八・二四	一	一八・二四	二	三六・四八
東京瓦斯株式會社	一	一八・二四	一	一八・二四	二	三六・四八	
計	一六	一一二・一三	五	五五・〇九	二一	一六七・二二	
合	計	六九	九一三・一三	二七	二七〇・四二	九六	一二八三・五五

年	大掘鑿	小掘鑿	計
件數	延長	件數	延長
昭和二年	八	九	一七
昭和三年	二七	二	二九
昭和四年	一四	四	一八
計	四九	一五	六四



昭和四年		計	
市水道局	市土木局下水課	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社
五三、八四一・七四	二、七六〇・五二	一、二七〇・四二	三、四一・三七
六、一六・三〇	五、二九	一、五七	九、五・四八
七、七五〇・六四	一、八三・八五		
三〇、四六三・五五	一、三九・二三		
二六、四一、四五・七〇	一、〇七五・五六	五、六一、二四・九三	三、六四・四八
			五、四二
			三〇
			七
			一、七五〇・六四
			一、八三・八五
			四、三・五五
			一、三九・二三
			一、四四〇・〇六

合計		計	
市水道局	市土木局下水課	市電氣局	東京電燈株式會社
六九六、五六・九三	三、二九四	二、一七〇・四二	六三三・三五
二、三六・一〇	一、二八・九	三、三三・八四	五、四三・二二
九二、二四・五二	三、八・六四		
二、五五・三〇	一、八三・二四		
五、七四七・一三	二、三四・一三		
五、五、〇六・三〇	一、五、二、〇一	五、二、四・五三	二、〇、七、七、五、八
一、三、九、四、九、〇、八、四、四、六、五、三、四、四	七、二、四、七、七、七	二、〇、七、七、五、八	一、六、六、六、〇、三
			六、五、四、一、六

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年八月三十日之が作成を了し市土木局に引繼を爲せり、其の臺帳記入工作物は電柱六百七十二本、管線路二萬五千九百二間七三にして、之を類別すれば新設せるもの電柱四百二十本、管線路一萬五千二百二十間三七、撤去せるもの電柱二百五十二本、管線路六千二百一十一間二六、埋殺せるもの四千四百七十一間一なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設	撤去	埋殺	計
水道	四、八六・四九	一、五九・三一	八八・九〇	七、三三・七〇
下水	二、二四・五	—	—	二、二四・五
電柱	四〇本	一五本	—	六七本
電纜	—	—	—	—
市電	七〇・五三	三、八五・一〇	—	一、一三〇・三八
瓦斯	七、三九・一〇	三、七四・〇〇	三、五八・二〇	一、四、七、四、九・三〇

第五十二地區

丙 地下埋設物其他工作物整理





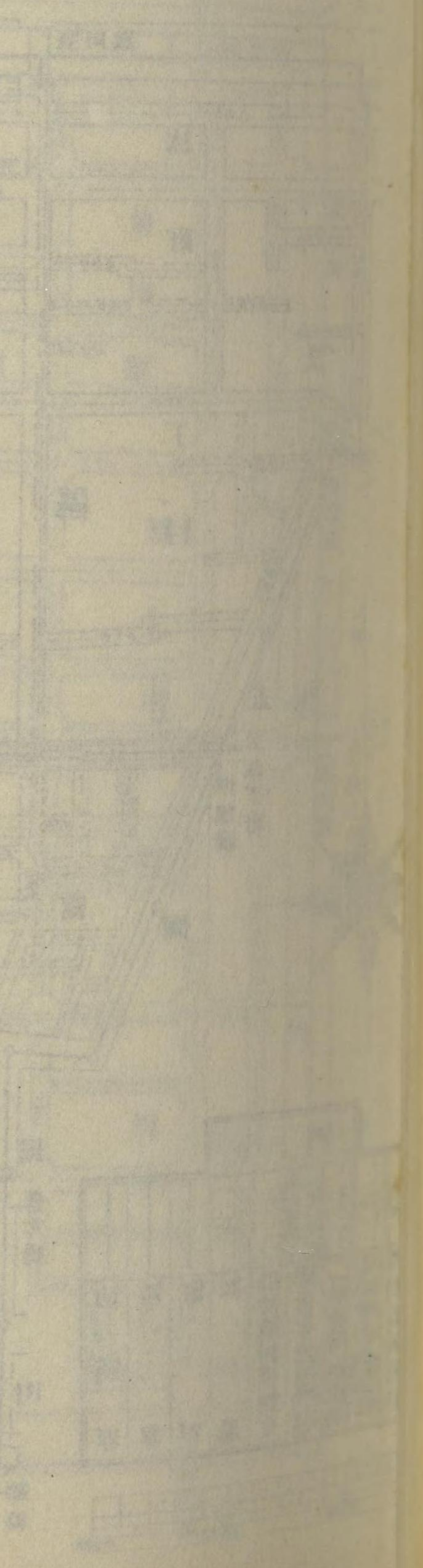


第五十三地區

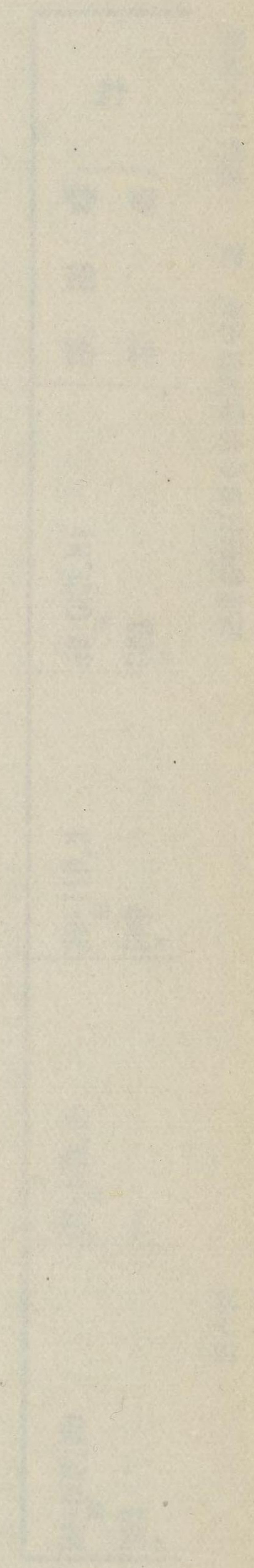


卷之三

(一)



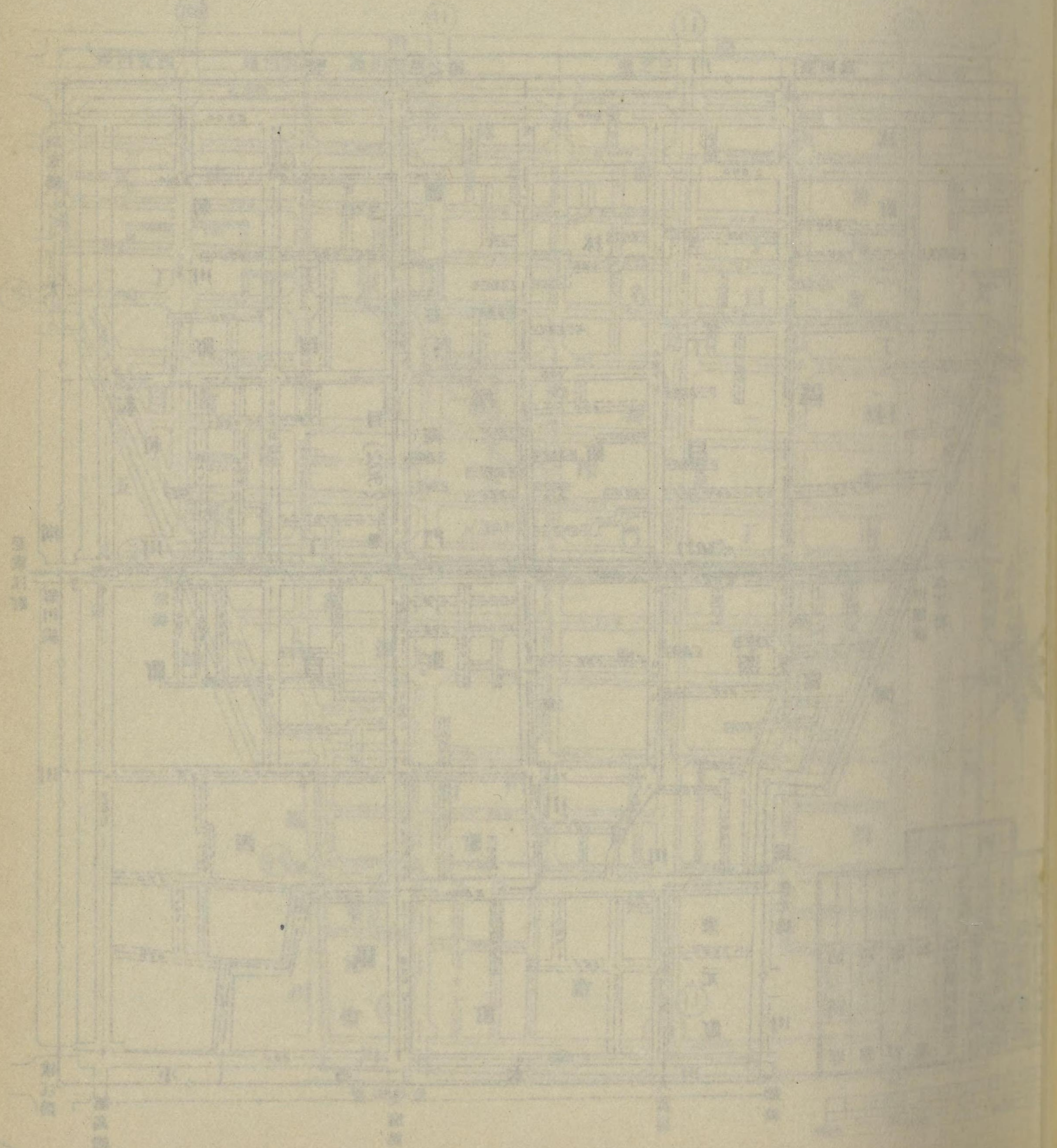
卷之三十三





新編機械學圖

(空機圖)







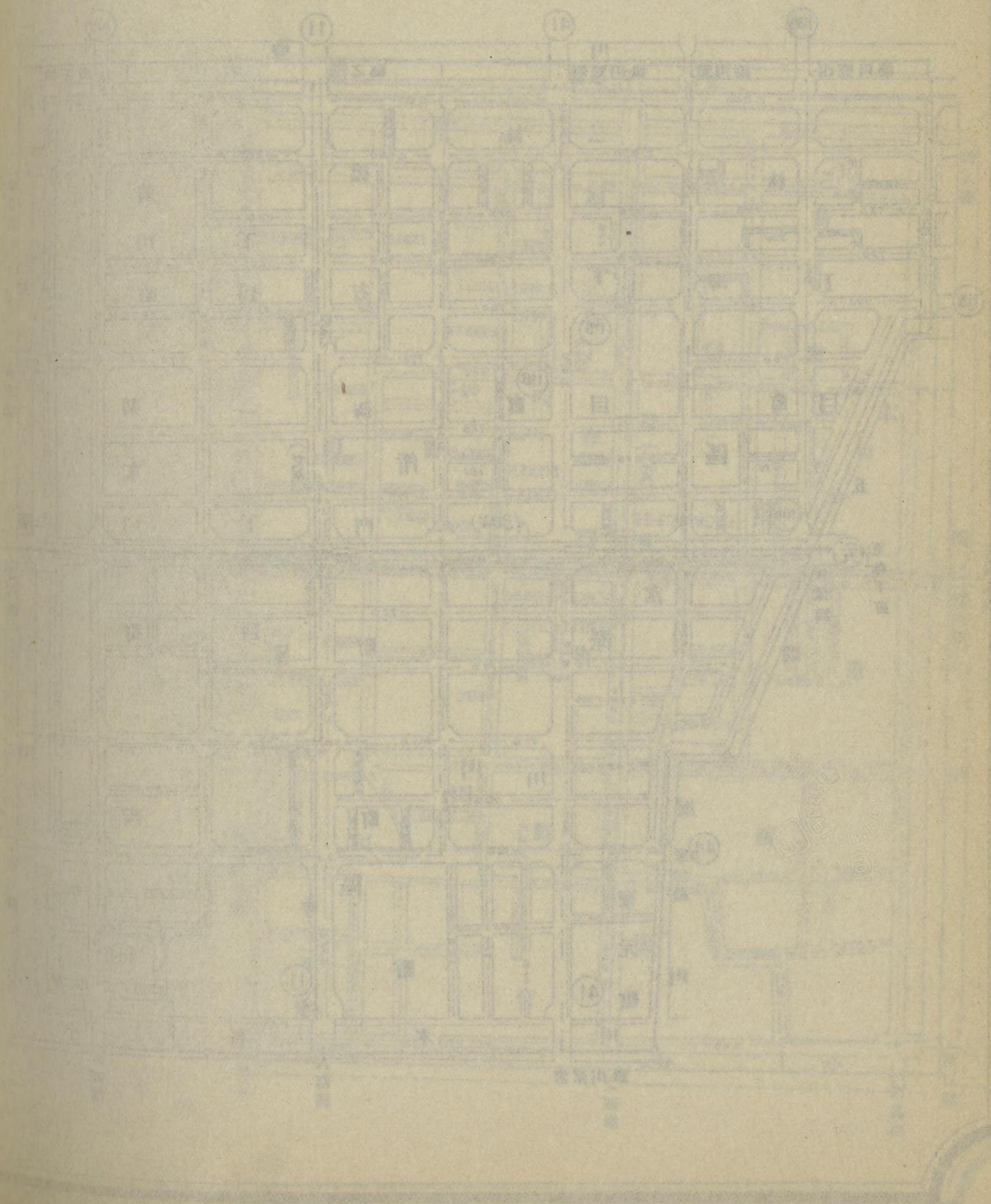




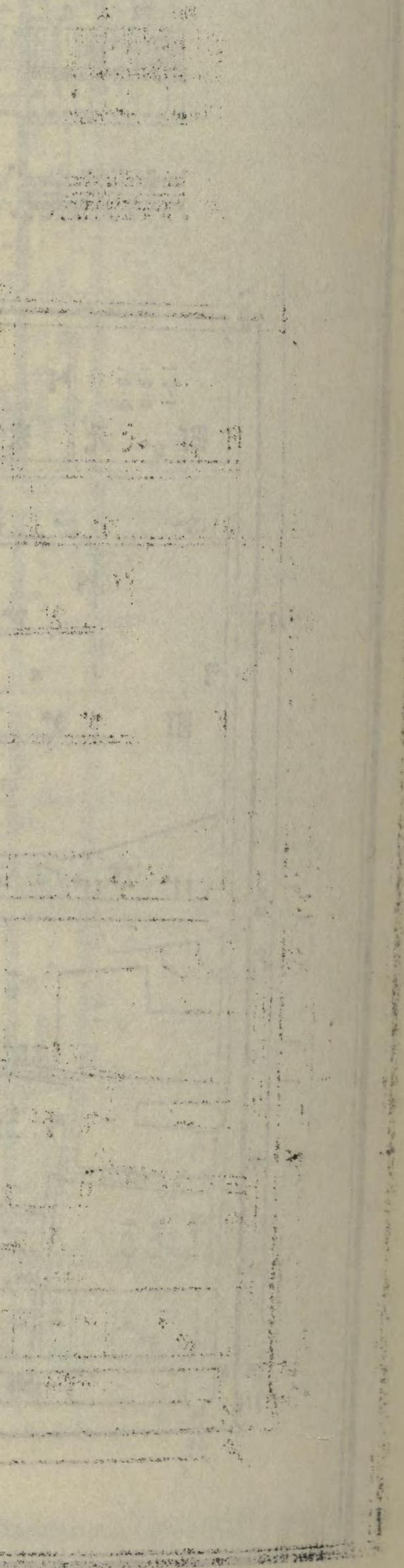


第 一 卷 第 一 章 第 一 節

( 附 圖 )



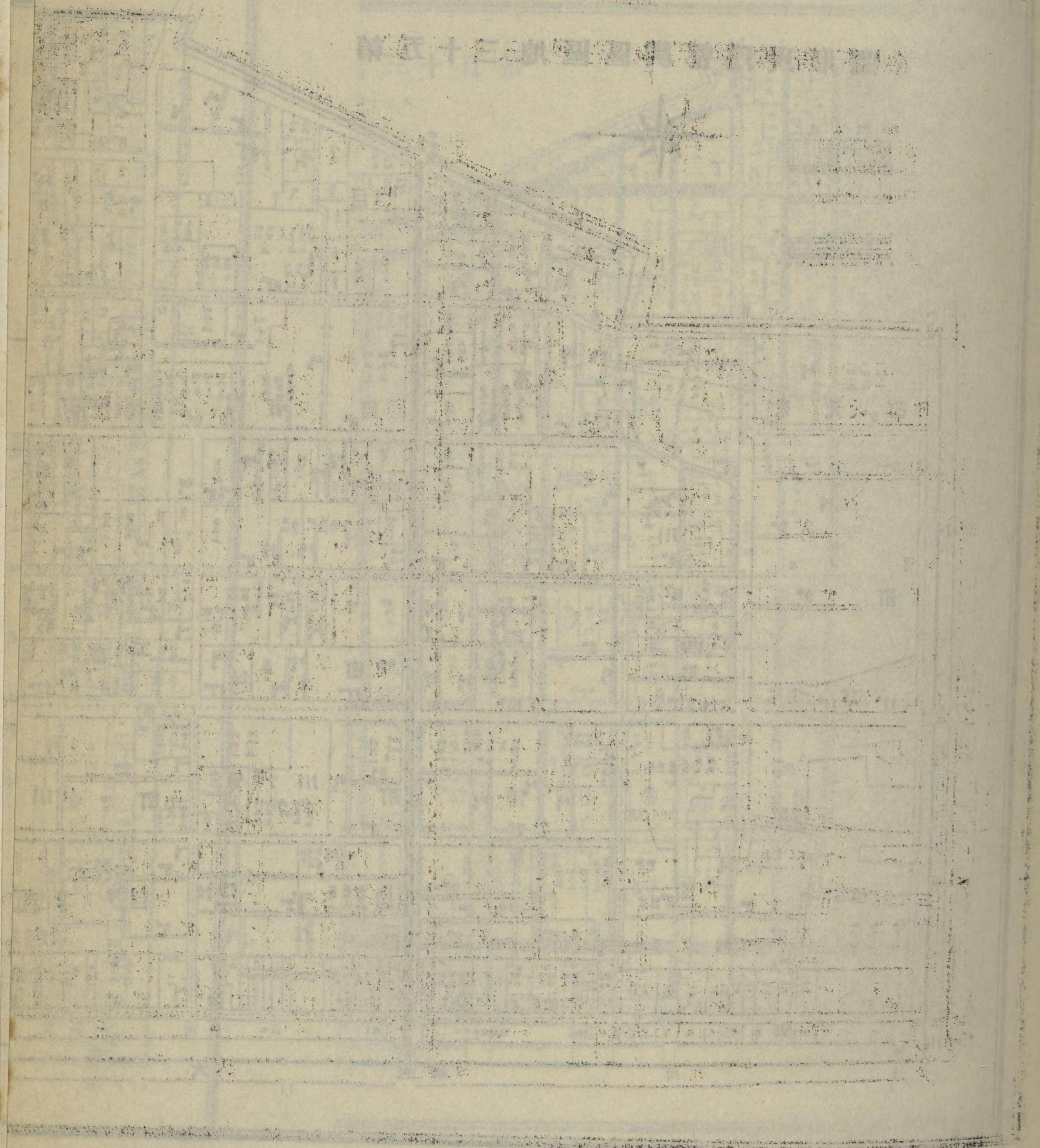
第 一 卷 第 一 章 第 一 節





Y. 1000  
1111

廣東省城三仙門外新築城隍廟



廣東省城

新築城隍廟

三仙門外

城隍廟

廣東省城

新築城隍廟

三仙門外

城隍廟

廣東省城

新築城隍廟

三仙門外









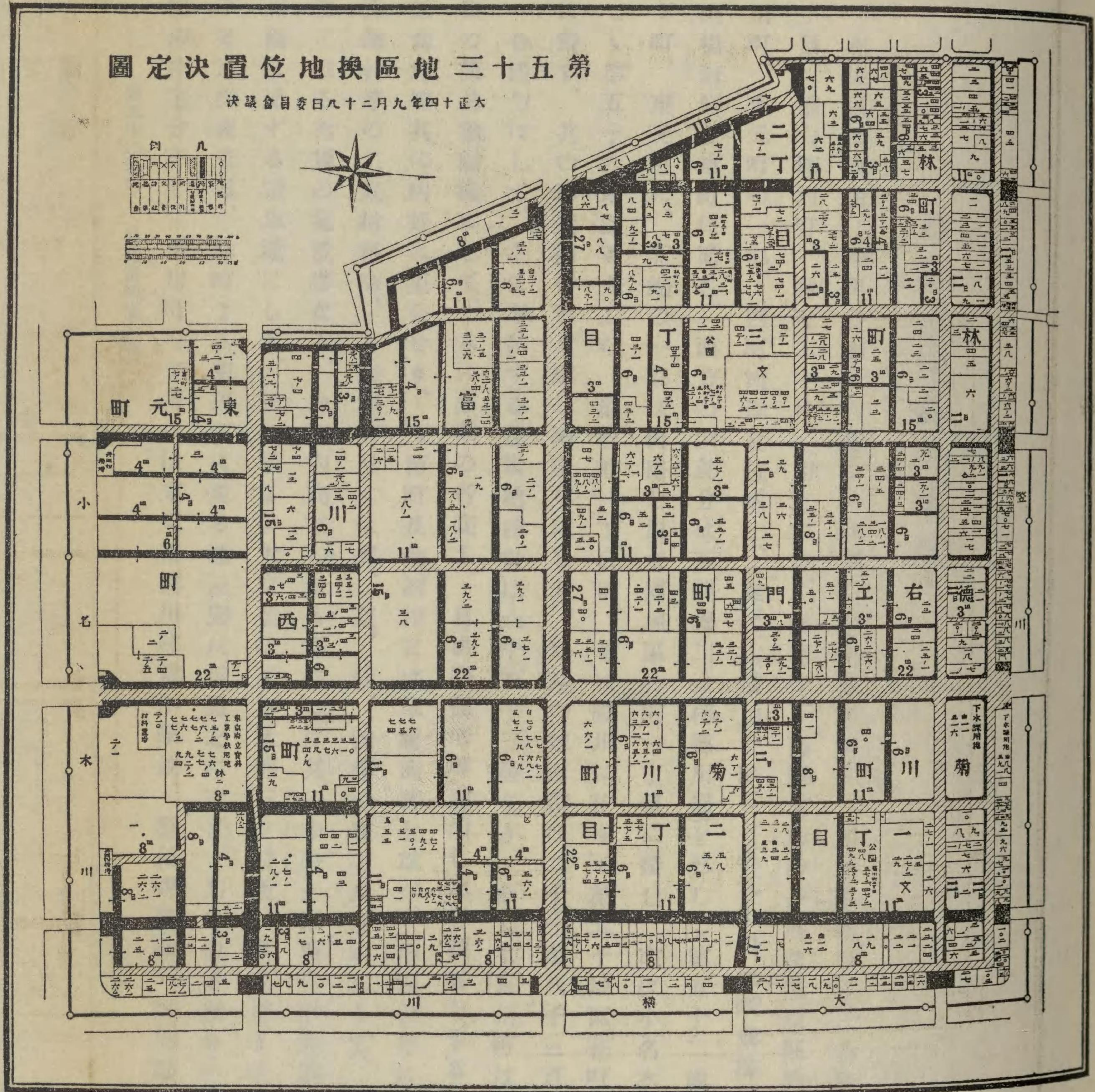






圖定決置位地換區地三十五第

決議會目委日八十二月九年四十二大

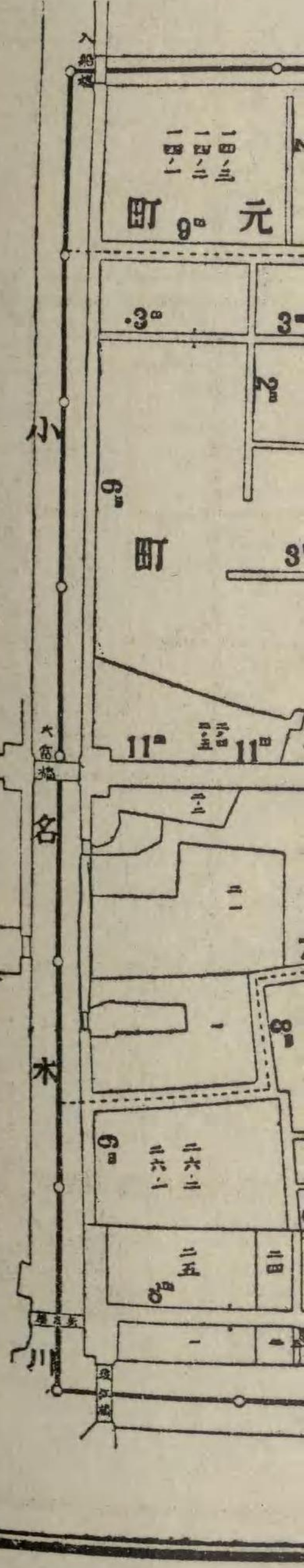


圖形

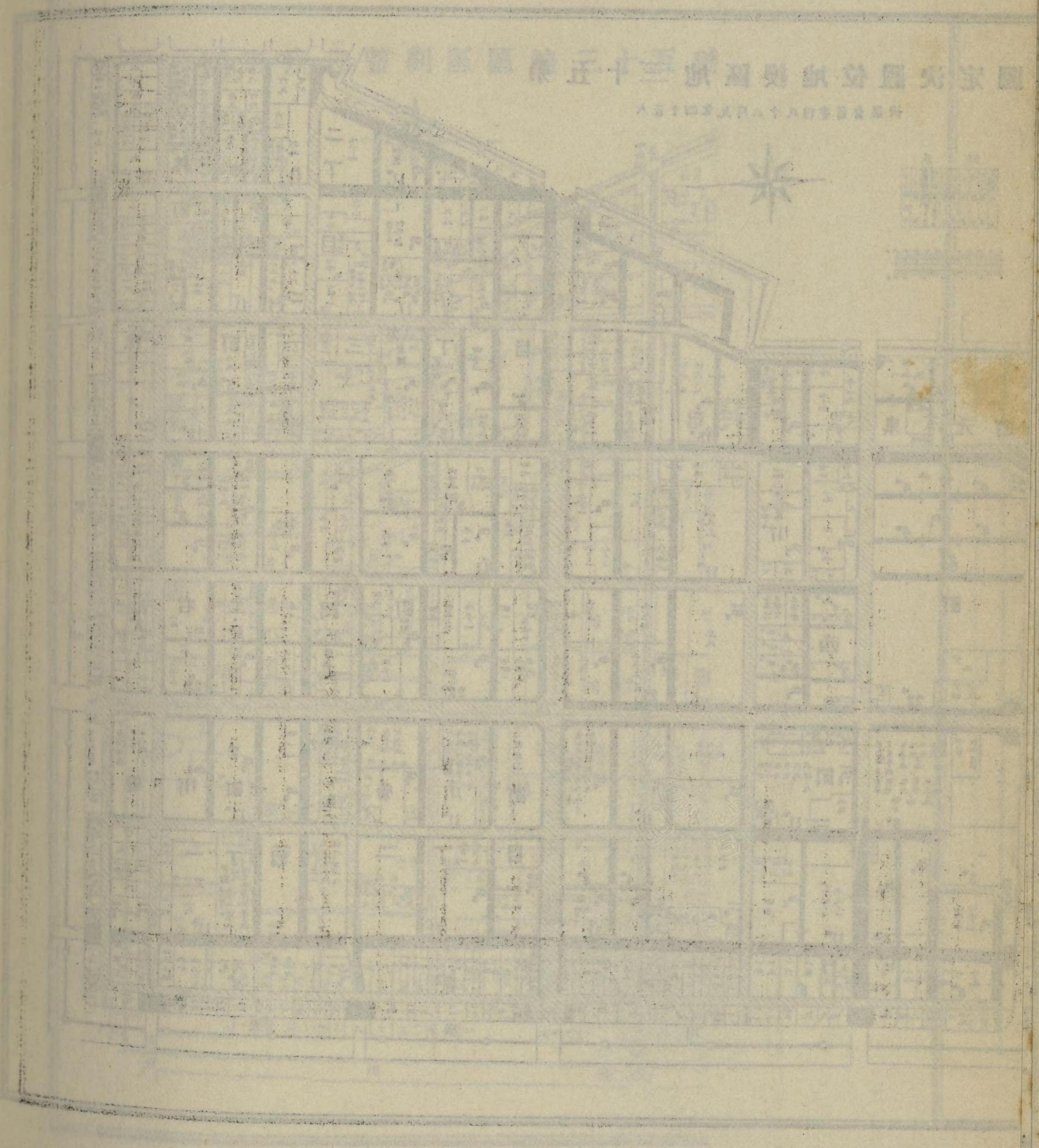
例

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
31 32 33 34 35 36 37 38 39 40  
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50







### 整理前地区の概況

本地区は本所、深川の兩區に跨りて江東の中央部に位し、本所區菊川町一丁目、同二



## 整理前地區の概況

本地區は本所、深川の兩區に跨りて江東の中央部に位し、本所區菊川町一丁目、同二丁目、徳右衛門町、林町二丁目、同三丁目、菊河岸、南豎河岸の一部及深川區西町、富川町、東元町の一部、西町河岸を包括し、東は大横川を隔て、第五十四地區東横川河岸、晒場河岸及東町に面し、西方の大部分は五間堀川(通稱徳川堀)を界して第五十二地區東森下町、東元町に、北端の一部は街路を以て同地區林町一丁目に接し、南は小名木川を隔て、第五十六地區東大工町、扇橋町一丁目に、北は豎川に依りて第五十地區花町及緑町に對す、其の形狀稍梯形を成し地勢平坦なり、地區の總面積は二十一萬八千三百二十坪一合四勺にして、之に所在する建物總棟數は六千四十三棟なり、而して富川町は市内有數の簡易旅館街にして、常に多數の行商人、自由勞働者等宿泊し之を顧客とする古物商、飲食店等其の附近に集合せり、又西町及菊河岸には木材商軒を竝べ、南豎河岸には石材及鐵材等の工業材料商、小名木河岸には繩、苳、綿、油等の商店及倉庫ありて、水陸の便に依る物貨の集散盛なり、地區内商業の最も盛なるは其の中央を東西に伊豫橋より菊川橋に通ずる電車通にして、三ノ橋より大富橋に至る通稱三ツ目通、東元橋より西町に至る通稱夜店通、林町より菊川町に至る通及豎川橋通之に次ぎ、其の他は概ね小商店の間に住宅介在す、菊川町一丁目には東京市菊川尋常小學校、榎稻荷神社、渡邊鐵工場、



同町二丁目には宮田自轉車工場、守谷度量衡製造所、港鐵工場、松德硝子工場、徳右衛門町には玄徳稻荷神社、池田文具製作所、林町二丁目には東京區裁判所林町出張所、東京府立實科工業學校、東京市簡易宿泊所、赤羽衡器製作所、東洋電鍍工場、林町三丁目には本所電話局、東京市中和尋常小學校、東京電燈株式會社變電所、福島硝子工場、西町には東京製壘株式會社、富川町には東京市簡易宿泊所、株式會社石川島造船所附屬工場、東元町には淺野セメント株式會社附屬工場、日本霰彈株式會社等あり。

## 甲 整 地



# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第五十三地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年八月二十二日日本所區役所に於て執行したるに、何れも左記の通常選したり。

#### 一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

新井善作

内田安右衛門

小杉榮太郎

間淵銀次

若林保全合資會社

小林文之助

田中力藏

塚原寅次郎

高野重三

借地権者の部

佐藤愛藏

瀧井秀次郎

三好新次郎

土屋保

高瀬助次郎

藤井彦治郎

吉田吉五郎

米澤源七

武山繁十郎

#### 二 同上補闕委員

土地所有者の部

岡部貞助

矢作金四郎

高橋鐵次郎

本多長次郎

峯岸傳三郎

坂卷福太郎

長 明

大河内幸藏

第五十三地區 甲 整地



借地権者の部

磯部竹次郎	野口吉照	和泉文助	大澤光	横田七藏
相澤直次郎	半田天受	戸川鯉喜江	竹本貞次郎	

第二 議長並副議長の選舉

大正十三年九月十六日本所區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長吉田吉五郎議長及副議長選舉の方法を諮りたるに假議長の指名に決したるを以て、左の如く指名したり。

議長 小林文之助 副議長 高野重三

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至る迄左の如く異動したり。

- 一 借地権者選出委員土屋保大正十四年四月二十五日死亡したるに因り、同年五月二日同補闕委員磯部竹次郎補充せらる。
- 二 借地権者選出委員高瀬助次郎昭和二年六月七日死亡したるに因り、同月二十日同補闕委員野口吉照補充せらる。
- 三 借地権者選出委員米澤源七昭和三年十一月十九日死亡したるに因り、同年十二月六日同補闕委員和泉文助補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年七月二十五日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し七月十五日限東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年六月十五日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は審議の結果、當局より發する誤謬訂正出願期日通知書に、左記の通附記することの希望を付し原案の通可決せり。



一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年七月二十五日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し七月十五日限東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年六月十五日諮問 同日原案可決の上答申

議事要綱

本件は審議の結果、當局より發する誤謬訂正出願期日通知書に、左記の通附記することの希望を付し原案の通可決せり。

記

誤謬訂正を願出でざるものは實測面積を土地臺帳面積に按分すること。

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年六月十五日諮問 委員會四回 協議會三回開催 同年九月二十八日修正決議の上答申

三 諮問第三號 整理前路線價指數並各筆坪當平均指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十一月二十五日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年十二月二日修正決議の上答申

四 諮問第四號 整理後路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十五年五月十八日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

五 諮問第六號の一 換地面積決定に關する件 (富川町、西町の各一部)

大正十五年五月十八日諮問 同日原案可決の上答申

六 諮問第七號の一 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (富川町、西町の各一部)

大正十五年五月十八日諮問 同日原案可決の上答申

七 諮問第五號 換地位置變更に關する件

大正十五年七月十五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

八 諮問第六號の二 換地面積決定に關する件 (林町二丁目、西町の各一部)

第五十三地區 甲 整地



大正十五年七月十五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日修正決議の上答申  
九 諮問第七號の二 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町二丁目、西町の各一部)

大正十五年七月十五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一〇 諮問第八號の一 換地位置變更に關する件 (西町の  
一部)

大正十五年七月十五日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一一 諮問第六號の三 換地面積決定に關する件 (林町二丁目、同三丁  
目、西町の各一部)

大正十五年八月二十六日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一二 諮問第七號の三 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町二丁目、同三丁  
目、西町の各一部)

大正十五年八月二十六日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一三 諮問第八號の二 換地位置變更に關する件 (林町二丁  
目の一部)

大正十五年八月二十六日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一四 諮問第六號の四 換地面積決定に關する件 (徳右衛門町、菊川  
町、西町の各一部)

大正十五年九月二十九日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催

同日修正決議の上同年十月三十日答申

一五 諮問第七號の四 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (徳右衛門町、菊川  
町、西町の各一部)

大正十五年九月二十九日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一六 諮問第八號の三 換地位置變更に關する件 (徳右衛門町、菊川  
町、西町の各一部)

大正十五年九月二十九日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一七 諮問第六號の五 換地面積決定に關する件 (林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、  
菊川町二丁目、同二丁目の各一部)

大正十五年十月三十日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一八 諮問第七號の五 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、  
菊川町二丁目、同二丁目の各一部)

大正十五年十月三十日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申



大正十五年九月二十九日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申  
一六 諮問第八號の三 換地位置變更に關する件 (徳右衛門町、菊川町、西町の各一部)  
大正十五年九月二十九日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一七 諮問第六號の五 換地面積決定に關する件 (林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、菊川町一丁目、同二丁目の各一部)

大正十五年十月三十日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一八 諮問第七號の五 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、菊川町一丁目、同二丁目の各一部)

大正十五年十月三十日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

一九 諮問第八號の四 換地位置變更に關する件 (林町三丁目、菊川町一丁目、同二丁目の各一部)

大正十五年十月三十日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二〇 諮問第六號の六 換地面積決定に關する件 (林町二丁目、菊川町一丁目、同二丁目、西町、富川町の各一部)

大正十五年十一月二十四日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二一 諮問第七號の六 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (林町二丁目、菊川町一丁目、同二丁目、西町、富川町の各一部)

大正十五年十一月二十四日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二二 諮問第八號の五 換地位置變更に關する件 (林町二丁目、菊川町一丁目、同二丁目、西町、富川町の各一部)

大正十五年十一月二十四日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二三 諮問第六號の七 換地面積決定に關する件 (富川町、西町、林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、菊川町一丁目、同二丁目の各一部、南堅河岸、菊河岸、東元町)

大正十五年十二月十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申

二四 諮問第七號の七 整理後各筆坪當平均指數に關する件 (富川町、西町、林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、菊川町一丁目、同二丁目の各一部、南堅河岸、菊河岸、東元町)

大正十五年十二月十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日原案可決の上答申



- 二五 諮問第八號の六 換地位置變更に關する件 (富川町、西町、林町二丁目、同三丁目、徳右衛門町、菊川町一丁目、同二丁目、南堅河岸、菊河岸、東元町の各一部)  
大正十五年十二月十一日諮問 委員會一回 特別委員會一回開催 同日修正決議の上答申
- 二六 諮問第九號の一 換地位置並面積一部變更に關する件 (南堅河岸、林町三丁目の各一部)  
昭和三年九月二十日諮問 委員會三回 協議會一回開催 同月二十四日原案可決の上答申

議事要綱

本件中南堅河岸に關する分は、堅川橋々臺地に於ける變更にして、當初の設計は同橋臺地の大部分を換地に充當したるも、其の後の調査に依れば該所に電話埋設線あり、之が移轉に莫大の費用を要するを以て、橋臺廣場として在來の儘存置せむとするの案なり、然るに委員會に於ては復興事業促進上總ての諮問案を即決し、偏に事業完成を切望し來りし際、突然斯かる變更案を見るが如きは豫想せざる所なりとして反對せしが、現場調査を遂げ、且協議會を開きて研究を重ねたる結果、遂に本件變更は已むを得ざるものとして原案の通可決したり。

- 二七 諮問第十號の一 換地位置並面積一部變更に關する件 (林町二丁目、菊川町三丁目、富川町、西町、南堅河岸、菊河岸の各一部)  
昭和四年四月二十七日諮問 同日原案可決の上答申
- 二八 諮問第九號の二 整理前路線價指數並各筆坪當平均指數一部變更に關する件  
昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申
- 二九 諮問第十號の二 換地位置並面積一部變更に關する件  
昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申
- 三〇 諮問第十一號 土地各筆清筆に關する件

- 昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申
- 三一 諮問第十二號 換地處分に關する件  
昭和四年十月十六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同年十月二十四日原案可決の上答申
- 三二 諮問第十三號 補償金配當に關する件



- 昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申
- 二九 諮問第十號の二 換地位置竝面積一部變更に關する件  
 昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申
- 三〇 諮問第十一號 土地各筆清筆に關する件

昭和四年九月九日諮問 委員會二回 協議會二回開催 同年九月十八日原案可決の上答申

三一 諮問第十二號 換地處分に關する件

昭和四年十月十六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同年十月二十四日原案可決の上答申

三二 諮問第十三號 補償金配當に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當の額は整理前指數相當額と爲さむとす。

町名	地番	町名	地番	町名	地番
本所區林町二丁目	五〇ノ一	本所區林町二丁目	四四ノ二	本所區菊川町二丁目	四七ノ二
同	五〇ノ二	同	三〇ノ四	深川區富川町	二ノ三
同	五一	同	三二ノ二	同	二ノ一〇
同	七一ノ二	同	三七ノ二		
		菊川町二丁目			

右昭和四年十月十六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同年十月二十四日原案可決の上答申

三三 諮問第十四號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地又は

土地に關する權利の讓渡等ありたる場合の處分方の件

昭和四年十月十六日諮問 委員會二回 協議會一回開催 同年十月二十四日原案可決の上答申

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は二十一萬八千三百二十坪一合四勺にして、内宅地面積十六萬六千五百八十五坪九合

第五十三地區 甲 整地



九勺、公共用地面積五萬千七百三十四坪一合五勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割六分三厘、公共用地二割三分七厘なり、宅地内借地面積は十萬五千五百七十二坪三合五勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割三分四厘なり。

本地區に於ける街路及河川の分布狀況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

伊豫橋より菊川橋に至る電車通は地區の中部を東西に通じ幅員九間乃至十間、三ノ橋より大富橋に至る通稱三ツ目通は地區の稍東部を南北に貫通し、幅員七間乃至九間なり。

### 二 其の他の街路

地區の南部東元町より西町に至る通稱夜店通は幅員四間乃至六間、林町三丁目の中部を南走し富川町の中央部より左曲して大横川菊河岸に通ずる街路は幅員四間乃至五間、第五十二地區彌勒橋方面より林町二丁目の中部を東へ同三丁目、徳右衛門町を経て菊河岸に通ずる街路は幅員四間乃至五間、林町二丁目の北部より豎川に並行して菊川町一丁目に至り菊河岸に通ずる街路は幅員四間五分乃至五間五分、豎川に沿ふ南豎河岸通は幅員四間五分乃至五間、豎川橋より南下し電車通に通ずる通稱豎川橋通は幅員三間五分乃至五間五分、林町三丁目と徳右衛門町との界を南北に通ずる街路は幅員四間五分、菊川町一丁目、同二丁目の中部を南北に通ずる街路は幅員約四間、大横川に沿ふ菊河岸通は幅員四間乃至五間なり、以上の各街路は概して整然たるも其の配置粗隔し、且之を連絡する他の街路は幅員狭小、系統不規則にして交通不便なり。

### 三 河 川

大横川は地區の東側に在り幅員約二十間、深度三尺七寸にして、水運の便多く河心を地區界とす、小名木川は地區の南側に在り幅員約二十間、深度五尺三寸にして、舟楫の便に富み河心を地區界とす、

豎川は地區の北側に在り幅員約二十間、深度三尺六寸にして、水運の便多く河心を地區界とす、五間堀川(通稱徳川堀)は地區の西端に在り幅員五間乃至六間、深度一尺二寸にして、水運の便に乏しく河心を地區界とす。



小、系統不規則にして交通不便なり。  
大横川は地區の東側に在り幅員約二十間、深度三尺七寸にして、水運の便多く河心を地區界とす、  
小名木川は地區の南側に在り幅員約二十間、深度五尺三寸にして、舟楫の便に富み河心を地區界とす、

堅川は地區の北側に在り幅員約二十間、深度三尺六寸にして、水運の便多く河心を地區界とす、五間堀川(通稱徳川堀)は地區の西端に在り幅員五間乃至六間、深度一尺二寸にして、水運の便に乏しく河心を地區界とす。

### 第三章 計畫の概要

#### 第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路、運河及小公園左の如し。

##### 第一 幹線街路

第二十九號線は伊豫橋より地區の中央部を東西に貫通し菊川橋に至る街路にして、伊豫橋より補助線第十一號(通稱三ツ目通)に至る迄を幅員二十七米、其の以東を二十二米とし、在來電車通を兩側に擴張せり。

##### 第二 補助線街路

第十一號線は三之橋より南下して幹線第二十九號と交叉し大富橋に至る幅員二十二米の街路にして、在來三ツ目通の兩側に擴張せり、第四十一號線は新堅川橋より林町三丁目の中央部を補助線第十一號に並行して南下し、淺野セメント株式會社附屬工場の東側新橋(小名木川架設)に至る幅員十五米の街路にして、幹線第二十九號との交叉點以北は在來街路の兩側に擴張し、其の以南の内富川町内の一部は西側に擴張し、一部は新設し、東元町内の一部は東側に擴張せり、第四十四號線は東元橋より地區の南部を東走して新設猿江橋(大横川架設)に至る幅員十五米の街路にして、東元橋より東京府立實科工業學校の北側迄を在來街路の北側に擴張し、其の以東を新設せり、第八八號線は伊豫橋東詰にて幹線第二十九號より分岐北上し、補助線第百十五號と交り西堅川橋に至る幅員十一米の街路にして、補助線第百十五號迄は



新設し、其の以北は在來街路の東側に擴張せり、第百九號線は地區の東部を大横川に並行して南北に貫通する幅員十一米の街路にして全部新設せり、第百十五號線は補助線第四十一號中東京市中和尋常小學校の北側に於て分岐西走し、五間堀川の北端大久保橋の北詰に至る幅員十一米の街路にして、在來街路の兩側に擴張せり、第百十六號線は補助線第四十一號中東京市中和尋常小學校の東部より同第百十五號線と筋違ひに分岐東走し、菊柳橋大横川架設に至る幅員十一米の街路にして、在來街路の南側に擴張せり。

### 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、四米、六米、八米及十一米を土地の狀況に應じ、且幹線と補助線との連絡に考慮を拂ひ、在來街路を擴張又は改修を爲したる外、多數の街路を新設し、宅地の利用増進を計れり、而して小名木川沿在來街路は小名木川改修に伴ひ、運河の機能を充分發揮せしむるの根本方針に基きて之を廢止せり。

### 第四 運河

小名木川は國施行の改修運河にして幅員を擴張して五十五米とし、河底を浚渫して深度を二米一と爲す、其の幅員擴張の爲切取りたる面積千七十一坪九合二勺にして、内宅地三百六十九坪九合六勺、公共用地七百一坪九合六勺なり。

### 第五 小公園

本地區には中和、菊川の兩公園を新設せり、中和公園は本所區林町三丁目に在り、北は東京市中和尋常小學校及本所電話局に隣接し、東西は大部分民地に接するも東の一部は補助線第四十一號に、西の一部は十一米區劃整理街路に通じ、南は六米の區劃整理街路に面す、其の面積九百坪五勺なり、菊川公園は本所區菊川町一丁目に在り、北は東京市菊川尋常小學校に隣り、東は補助線第百九號に面し、西は民

地に、南は六米の區劃整理街路に接す、其の面積九百坪二勺なり。

以上述べたる幹線、補助線並區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。



本地區には中和、菊川の兩公園を新設せり、中和公園は本所區林町三丁目に在り、北は東京市中和尋常小學校及本所電話局に隣接し、東西は大部分民地に接するも東の一部は補助線第四十一號に、西の一部は十一米區劃整理街路に通じ、南は六米の區劃整理街路に面す、其の面積九百坪五勺なり、菊川公園は本所區菊川町一丁目に在り、北は東京市菊川尋常小學校に隣り、東は補助線第九號に面し、西は民

地に、南は六米の區劃整理街路に接す、其の面積九百坪二勺なり。

以上述べたる幹線、補助線並區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考	
幹線	計	一元	二七・〇〇	五八・六五 <sup>米</sup>	四、四七・四五 <sup>坪</sup>	
		二元	三三・〇〇	二七・二五	一、九八・二三	
		一元	二二・〇〇	七九・三〇	六、四九・五六	
		二元	二二・〇〇	八四・九三	六、〇六・八七	
		四元	一五・〇〇	八四・四六	四、〇四・四四	
		四元	一五・〇〇	五七・四五	二、七五・六一	
		四元	一〇・〇〇	四七・九三	一、六五・九六	
		一元	二〇・〇〇	八六・三三	二、九六・八〇	
		二元	二〇・〇〇	三三・九一	一、二七・四二	
		二元	二六・〇〇	四九・二三	一、七〇・七三	
補助線	計	一元	二〇・〇〇	四、三五・三三	三〇、四八・八一	
		二元	二〇・〇〇	四、一四・二五		
		一元	二〇・〇〇	三三・九一		
		二元	二〇・〇〇	八六・三三		
		二元	二〇・〇〇	三三・九一		
		二元	二〇・〇〇	四九・二三		
		二元	二〇・〇〇	三三・九一		
		二元	二〇・〇〇	八六・三三		
		二元	二〇・〇〇	三三・九一		
		二元	二六・〇〇	四九・二三		
區劃整理線	計	一元	一一・〇〇	四、一四・五九	一四、三七八・二元	一部地區界
		一元	八・〇〇	一、六六・〇七	三、九一・九六	
		一元	六・〇〇	四、九三・三三	七、六〇・八六	
		一元	四・〇〇	一、三四・五九	一、六四・四九	
		一元	三・〇〇	一、一七・九四	一、一五・七三	
		一元	三・〇〇	三、三〇・四六	二八、七五・三三	
		一元	三・〇〇	三、三〇・四六	二八、七五・三三	
		一元	三・〇〇	三、三〇・四六	二八、七五・三三	
		一元	三・〇〇	三、三〇・四六	二八、七五・三三	
		一元	三・〇〇	三、三〇・四六	二八、七五・三三	



合

計

一七、八〇・九

五、六三・七

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年六月十五日土地區劃整理委員會に附議し、同年九月二十八日修正決議せしむ、其の後十回に亘り一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し、昭和四年九月九日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年五月十八日より同年十二月十一日迄七回に分ちて提案し、其の都度各決議せしむ、其の後三回一部換地面積變更案を提出し、其の都度決議し、昭和四年九月九日議了せり。

換地設計に因る宅地面積十四萬四千八百六十三坪三合三勺、公共用地面積七萬三千四百五十六坪八合一勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割六分四厘、公共用地三割三分六厘なり、宅地の内借地面積は九萬千六百五十九坪にして、其の所有地面積に對する割合は六割三分二厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬二千九百九十六坪三合一勺、公共用地が宅地となりたる面積八千五百七十三坪六合五勺、其の差引潰地面積二萬千七百二十二坪六合六勺、減歩率一割三分なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

區分	總面積		宅地面積		公共用地		潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積より整理前宅地面積を控除したる補償面積
	内借地面積	宅地面積	公共用地面積	公共用地面積に對する割合					

整理前	三、八、三〇・一四 <sup>坪</sup>		一、六、五五・九 <sup>坪</sup>	〇・七六三	五、七三〇・一五 <sup>坪</sup>	〇・二三七	二、七三・六六 <sup>坪</sup>	〇・一三〇・九〇八	五、〇四・〇 <sup>坪</sup>
	一、四、八六三・三三	一、〇、五七二・三五	〇・六六四						











二、七五・一九 <sup>坪</sup>	六四・五二 <sup>坪</sup>	五、三〇・〇四 <sup>坪</sup>	八、二四九・七四 <sup>坪</sup>	坪	坪	八四・一三 <sup>坪</sup>	坪	三九・七六 <sup>坪</sup>	八、五七三・六室 <sup>坪</sup>
----------------------	--------------------	----------------------	-----------------------	---	---	--------------------	---	--------------------	-----------------------

備考 各公共用地の整理前面積に宅地が公共用地となりたる面積を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途変更を爲したるものあるに依る。

本地區の平均減歩率は一割三分にして換地設計の必要上、潰地充當用として三千九百八坪三合四勺を買収せり、之が爲實際潰地面積は一萬七千八百十四坪三合二勺に減少し、其の減歩率一割一分に低下したり、然るに猶ブロック間に於ける減歩率區々に亘りたるを以て之が調節の爲、ブロック間に宅地の移出入を行ひ其の設計を了したり。

#### 第四章 土地の評價

##### 第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年十一月二十五日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月二日修正の上決議したるも、昭和四年九月九日土地各筆清算に關する件の諮問に際し、之が一部變更案を提出し、同年九月十八日原案の通可決せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中乙及丙の兩率を適用したり、其の路線價指數は土地の狀況に依り六百二十五個乃至千個と評定せり、即ち徳右衛門町三十七番ノ一より菊川町二丁目七十番地先迄の電車通及菊川町二丁目六十六番ノ一地先の三ツ目通を最高千個、菊川町一丁目二十八番、同二丁目五十八番、林町二丁目二十五番、同五十九番、六十番、林町三丁目五十二番、五十三番、各地内の行詰り私道を最低六百二十五個と定めたり、而して路線價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は九百五十八個、菊川町二丁目二十八番にして、最低は四百二十九個、徳右衛門町五十一番ノ三なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數一億五百三十三萬八千五百七十九個より、私道指數五千四百五十六個を控除したる一億五百三十三萬三千二百二十三個にして、之を宅地總面積の十六萬六千五百八十五坪九合九勺にて除したる平均坪當指數は六百三十二個なり。



借地権利割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數に關する件は大正十五年五月十八日土地區劃整理委員會に附議し、同日原案の通可決せり、整理後各筆平均坪當指數に關する件は大正十五年五月十八日より同年十二月十一日迄七回に亘り同委員會に附議し、其の都度決議し、同月十一日議了せり。

本地區整理後の土地評價には整理前と同じく乙及丙の兩率を、又整理前路線價を有したる小名木川河岸通は廢道となりたる結果、小名木川に河川價を附し丙率を適用したり、其の路線價及河川價指數は土地の整理狀況に依り六百五十個乃至千百個と評定したり、即ち幹線第二十九號中菊川町二丁目七十三番及徳右衛門町三番地先整理前千個に評定したる個所を最高千百個に、林町二丁目十八番、十九番、七十番、八十八番並林町三丁目、富川町内之に類似の三米區劃整理街路を最低六百五十個と定めたり、而して路線價並河川價指數に基き算出し之に地盤の高低に依る達觀を加へたる土地各筆平均坪當指數の最高は千百十八個、菊川町二丁目五十九番にして、最低は四百九十二個、菊川町一丁目十四番なり。

換地全筆の總指數は一億二百八十五萬六千九百九個にして、之を換地總面積の十四萬四千八百六十三坪三合三勺にて除したる平均坪當指數は七百十五個なり。

借地権利割合は整理前同様市有河岸地を五割五分、一般宅地を二割五分乃至三割と定めたり。以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000	18,000	1,000	19,000
各筆坪當	9.6	172.4	11.8	177.0
最高	4.0	7.3	4.3	101.4
最低	9.6	172.4	11.8	177.0

各筆坪當	路線價		各筆坪當	
	最高	最低	最高	最低
1,000	18,000	1,000	19,000	
9.6	172.4	11.8	177.0	
4.0	7.3	4.3	101.4	
9.6	172.4	11.8	177.0	



すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區	分	整理前		整理後	
		指數	價格	指數	價格
路	線	1,000	1,000	1,100	1,900
各	筆坪當	65	125	65	127
最	高	125	125	128	101
最	低	73	75	75	88
宅	地總平均坪當	63	76	75	77

區	分	整理前		整理後	
		指數	價格	指數	價格
路	線	1,000	1,000	1,100	1,900
各	筆坪當	65	125	65	127
最	高	125	125	128	101
最	低	73	75	75	88
宅	地總平均坪當	63	76	75	77

備考 指數單價は十八錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區	分	整理前		整理後	
		指數	價格	指數	價格
所	有權	82,856,542	14,914,175	82,874,460	14,915,341
外	(内私道)	2,422,505	43,870,900	2,422,505	43,870,900
借	地權	110,000,531	3,600,857	110,048,649	3,608,756
合	計	101,917,043	18,515,033	101,884,109	18,524,993
外	(内私道)	2,422,505	43,870,900	2,422,505	43,870,900

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。

二 整理前の總指數は潰地充當用買收地の指數を包含するもの一〇五,三三八,五七九個なり。

第五十三地區 甲 整地



三 整理前宅地總指數は(私道の指數を包含せざるもの)一〇五、三三三、一二三三個なり。

## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年九月九日土地區劃整理委員會に諮問し、同年九月十八日原案の通可決し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和四年十月十六日同委員會に諮問し、同年十月二十四日原案の通可決したるを以て、即日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月三十一日認可、同日内務省告示第三百三十三號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第四百五十三號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領權利者は十月三十一日より十一月九日迄に東京市復興事業局第四出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前四百八十二筆、整理後五百三十一筆、借地整理前二千四百四十五件、整理後二千二百一件なり、土地權利者は所有權者整理前二百三十八人、整理後二百三十七人、借地權者整理前後共千六百五十六人なり。

土地各筆清算に際しては整理前清算土地評定權利指數一億二百九十一萬七千七十四個を以て、換地の評定權利指數一億二百八十五萬六千九百九個を除したる比率〇九九九四〇七六を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

#### 一 清算を爲したるもの

換地說明書別	從前の土地		換地		計算上の清算	清算
	面積	積	面積	積		
所有地	八四、二五、九九	八四、三六、二六	所有地	八四、三六、二六	徴收し得るもの	徴收交付
借地	八四、二五、九九	八四、三六、二六	借地	八四、三六、二六		
權利價格	八四、二五、九九	八四、三六、二六	權利價格	八四、三六、二六	徴收するもの	徴收交付
比例權利指數	八四、二五、九九	八四、三六、二六	評定權利指數	八四、三六、二六	供託を要するもの	徴收交付
徴收	八四、二五、九九	八四、三六、二六	徴收	八四、三六、二六		徴收交付
徴收	八四、二五、九九	八四、三六、二六	徴收	八四、三六、二六		徴收交付



の評定権利指數一億二百八十五萬六千九百九十九個を除したる比率〇・九九九四〇七六を、整理前の各筆権利指數に乗じて整理前の比例権利指數を算出せり。  
換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地説明書別	從前の土地		換地		評定権利指數	権利價格	徵收	計算上の清算		徵收交付	清算
	所有地	借地	所有地	借地				交付	交付		
甲	一五六一八三〇三 <sup>坪</sup>	六五三四九三 <sup>坪</sup>	一四七七八六四五 <sup>坪</sup>	五八五〇五七 <sup>坪</sup>	八四三八二二六 <sup>円</sup>	四三八、〇五八六 <sup>円</sup>	二四四五〇二二八 <sup>円</sup>	一六三七三二八 <sup>円</sup>	三八五八八七六 <sup>円</sup>	三六八、六五八、三六 <sup>円</sup>	
乙	—	九九〇三七四三	—	八五八〇八四三	一八四三三八〇 <sup>円</sup>	九二、六七二〇	一三、〇九七〇	—	八、六五三三	一一、五八三六二	
計	一五六一八三〇三 <sup>坪</sup>	一〇、五七三、一五五 <sup>坪</sup>	一四七七八六四五 <sup>坪</sup>	九、三五九、〇〇〇 <sup>坪</sup>	一〇、二七六、〇三六 <sup>円</sup>	一、三〇、七二八六	三六、一四七、〇二八	一六、三三七三二八	四八、〇二四一九	四八、〇二四一九	

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有権と所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみの清算を掲ぐ。

二 從前の所有地面積は臺帳面積にして、借地面積は申告面積なり。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	從前の土地			換地			摘要
	區町丁目	地番	地目	面積	區町丁目	地番	

第五十三地區 甲 整地



東京市	本所區 菊川町二丁目	八〇	河岸地	三・〇 坪	本所區 林町三丁目	四七	河岸地	三・三 坪	共同物揚場
計	同	八四	同	七・六 坪	同	四五	同	三・六 坪	同

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	備	考
山田ヨシ	深川區西町	二ノ三	道路	所有權	九・〇 坪	二・七五	四九・五〇	道路敷	
栗原徳次郎	同富川町	三ノ二(58)	宅地	賃借權	九・二	一・三三	三三・五	協定に依る	
松竹キネマ 株式會社	同西町	三ノ六(2)	同	同	三・〇〇	二・六七	四八・六	路線價付私道	
合計				所有權 賃借權	四七・九〇 坪	三・三三	四九・五〇 七〇・四〇		

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

民有地道路二筆百七十二坪八勺、東京市所有地道路五十七筆二千二百八十六坪四合四勺、用悪水路一筆十七坪五勺、内務省所有地道路一筆二十七坪八合、合計二千五百三坪三合七勺。  
潰地充當用買收地東京市所有地五筆千七百三十四坪二合六勺、内務省所有地六筆二千七百七十四坪八勺、合計三千九百八坪三合四勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定をなしたるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權二件、地上權假登記六件、抵當權百

八十八件、抵當權假登記五件、賃借權二件、賃借權假登記二十二件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの豫告登記四件、所有權假登記二件、差押二件、競賣申立十件、工場財團二件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千百十三件あり。



潰地充當用買收地東京市所有地五筆千七百三十四坪二合六勺、内務省所有地六筆二千七百七十四坪八勺、合計三千九百八坪三合四勺。

三 所有權以外の權利又は處分の制限の指定をなしたるもの

一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權二件、地上權假登記六件、抵當權百

八十八件、抵當權假登記五件、賃借權二件、賃借權假登記二十二件あり。

二 處分の制限の指定を爲したるもの豫告登記四件、所有權假登記二件、差押二件、競賣申立十件、工場財團二件あり。

三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權二千百十三件あり。

備考 右の外係争中の賃借權十八件、借地法第六條該當地三件、同法第九條該當地百三十六件あり。

### 第二節 清算金

#### 第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和四年十月三十一日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は四十八萬二千四十一圓九十八錢にして人員八百六人なり、又土地補償金は同年十二月三日補償審査會に於て十三萬千六百三十六圓五十二錢人員千九百二十八人と決定せられ同月五日其の通知を受けたり、依て同日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徴收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徴收清算金		充當後交付補償金	
金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員
四八〇、四・九 <sup>円</sup>	八〇六	一三、六六・五 <sup>円</sup>	一、九六	五、〇八・五 <sup>円</sup>	八〇二	四五、一五・〇 <sup>円</sup>	七七	六、五〇・五 <sup>円</sup>	一、二五

#### 第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前記充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。



### 第三 清算金の徴收

本地區に於ける徴收清算金總額は四十八萬二千四百一十一圓九十八錢なりしが、内五萬五千八十五圓九十四錢に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引四十二萬五千百五十六圓四錢にして人員七百二十七人なり。

右徴收人員七百二十七人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの三百十一人なるも、内官公署分五件を除き差引三百六人に對し分納申請期限を昭和四年十二月二十日とし、同月五日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの百三十人にして資格者總數に對し僅に三割六分に過ぎざりしを以て、同月二十四日未提出者百七十六人に對し更に昭和五年一月十日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請したるもの六十四人ありて結局申請者合計百九十四人となり資格者總數に對し六割三分餘となりたり。

依て右申請書を審査の上、昭和五年二月五日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

本地區の清算金徴收事務は本所區役所に於て取扱ふものにして、昭和五年二月より之が徴收を開始せり。

### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は四十八萬二千四百一十一圓九十八錢にして昭和四年十二月十七日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十七萬七千五百九十九圓九十四錢なり。

## 第六章 土地補償金

### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割三分〇三九九〇八なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及小公園敷充當用として市に於て買收したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前權利指數に



拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額四十七萬七千五百九十九圓九十四錢なり。

## 第六章 土地補償金

### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割三分〇三九九〇八なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買収したる土地及小公園敷充當用として市に於て買収したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を各整理前權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年十一月十二日補償審査會に提出し、同年十二月三日原案の通決定せられ同月五日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は十三萬千六百三十六圓五十二錢にして人員千九百二十八人なり。

#### 補償金計算調書

(其の一)

摘		要	員
整理前宅地	整理後宅地	總面積	一六六、五八五坪九九
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	潰地面積	面積	一四四、八六三坪三三
整理前宅地の一割に相當する面積	面積	面積	二一、七二二坪六六
補償總面積	面積	面積	〇・一三〇三九九〇八
整理前宅地總面積	面積	面積	一六、六五八坪五九
同前宅地總面積	面積	面積	五、〇六四坪〇七
指前宅地總面積	面積	面積	一〇五、三三三、一二三個
整理前宅地總面積	面積	面積	六三二個
整理前宅地總面積	面積	面積	〇圓一八
整理前宅地總面積	面積	面積	一一三圓七六

第五十三地區 甲 整理地



第五十三地區 甲 整地

補償金總額 三、二〇〇、四九三個  
 補償金總額 五七六、〇八八圓五六

六〇〇

(其の二)

摘要	員數
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	三、九〇八坪三四 一、四二二、五〇五個 一、四二二、五〇五個 四三五、八七〇圓九〇
差引整理前住宅地總指數	一〇二、九一一、六一八個 七七八、九八七個
差引配當率 (整理前指數千個當)	七個五六九四七四
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	一三、八三六坪四四 六、二九八、〇三三個 四七、六七三個
差引要交付補償金額	八、五八一圓一四 一三一、六三六圓五二

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、市負擔額は十八萬九千七十九圓二錢となりしも、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地の評定價格が、國負擔額に對し五萬七千四百四十二圓五十錢超過となりたるを以て、之を市負擔額に充當し立替を受けたる結果、差引十三萬千六百三十六圓五十二錢(人員千九百二十八人)を市に於て負擔することゝなりたり。

國市負擔區分調査表

(其の二)

補償	國負擔	市負擔	備考
旨數	旨數	旨數	整理前總面積平均平國又は公



圓二錢となりしも、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地の評定價格が、國負擔額に對し五萬七千四百四十二圓五十錢超過となりたるを以て、之を市負擔額に充當し立替を受けたる結果、差引十三萬千六百三十六圓五十二錢(人員千九百二十八人)を市に於て負擔することとなりたり。

國市負擔區分調査表

(其の一)

補償	面積		國負擔	面積		市負擔	備		考
	金額	指數		金額	指數		整理前總面積	平均坪	
五〇、四〇七坪	三、一〇〇、四九二圓	一、七九、八三三坪	二〇四、七四八、七四圓	三、一六四、二四坪	三七一、三三九、八二圓	一〇五、三三三、二三圓	六三三圓	八、七九、五五六圓	
五七六、〇八八、五六一圓	一、一三七、四九三圓	二〇四、七四八、七四圓	三、〇四九、七四圓	二、〇六一、九九九圓	一六六、五八五、九九坪				

(其の二)

(△印は減を示す)

國負擔	種別	面積	補償		施行令第二十九條該當地	計	差引交付	
			金額	指數			金額	指數
幹線	補助線の 内電氣事 業用地	一、七九、八三三坪	一、一三七、四九三圓	二〇四、七四八、七四圓	一、四四九、六七五圓	一、四四九、六七八圓△	三九、二五〇圓	
		一、四六四、二七坪	九五、三五五	二、四八二、二三	一、一四五、六八八圓	一、一四五、六八八圓△	五七、四四二、五〇圓	
			一六、五三三、九〇	二、四八二、二三	一、一四五、六八八圓	一、一四五、六八八圓△	九二、五七一	

第五十三地區 甲 整地



總計	市負擔	
	小公園	計
五〇四、〇七	一、八〇〇・七	三、二四二・四
五七、〇八・五	一、二七、六四	二〇、七五・九二
八、五八・四	一六、九六	三、〇五〇・二六
四三、八七〇・九〇	九二、八三〇	一七、七五・四〇
四四、四三・四〇	九九、七六	一七九、七九・六八
三三、六六・五三	一三六、八六	二四、九六・二四
		二〇、九一・九三
		三七、三九・八二
		五、三二・四〇
		三〇、七三〇
		九一、八三〇
		一、〇二二、五〇六
		一八二、二六〇・八〇
		一八九、〇七九・二〇
		七三、三三四
		二、四九、一七六
		二、四二二、五〇五
		四七、六三三
		三、一〇〇、四三二

第三 各權利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は十三萬千六百三十六圓五十二錢なりしが、内五萬五千八十五圓九十四錢を徵收清算金に充當したる結果、各權利者に直接交付すべき補償金は七萬六千五百五十八圓五十八錢(人員千五百五十六人)なり。

第四 補償金の交付

本地區に於ける補償金總額十三萬千六百三十六圓五十二錢中、徵收清算金に充當したる金額五萬五千八十五圓九十四錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年一月十日支出し、直接交付額七萬六千五百五十八圓五十八錢は昭和四年十二月十七日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額七萬六千四百九十一圓十二錢にして交付済額合計十三萬千五百七十七圓六錢なり。



八十五圓九十四錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和五年一月十日支出し、直接交付額七萬六千五百五十圓五十八錢は昭和四年十二月十七日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額七萬六千四百九十一圓十二錢にして交付濟額合計十三萬千五百七十七圓六錢なり。

## 第七章 登記及地價配賦

### 第一節 登記

#### 第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更五十五件、土地名義人表示更正及變更十三件、土地分合筆百五十件、家督相續十一件なり。

#### 第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前四百十一筆、整理後四百八十四筆にして、建物囑託件數は要登記のもの千四百九十三件、現存を認め難きもの五十五件なり、囑託書を東京區裁判所林町出張所に提出したるは昭和五年二月三日にして、登記の完了は同年三月二十二日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日即ち昭和四年十月三十一日より約五箇月に亘れり。

### 第二節 地價配賦

#### 第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を兩國橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 一 土地區劃整理施行申告 | 大正十五年八月二十一日 |
| 一 工事著手届      | 同日          |
| 一 工事完了届      | 昭和四年十一月二日   |

#### 第二 地價配賦

第五十三地區 甲 整地



第五十三地區 甲 整地

六〇四

地價配賦案は昭和五年一月六日之が作成を了し、同年一月九日兩國橋稅務署長に提出し、同年三月二十七日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は六十五萬八千六百五十二圓四十錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は九萬九千六百七十二圓十二錢なり、之を前述の地價總額六十五萬八千六百五十二圓四十錢より控除したる五十五萬八千九百八十八圓二十八錢は、即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は五圓九十六錢六九八七なり。地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
一五、一〇二・五 <sup>坪</sup>	一三、六三三・七 <sup>坪</sup>	二、四六八・八 <sup>坪</sup>

二 整理前有租地坪當平均地價

租整地面積	同上總地價	坪當平均地價
一五、一〇二・五 <sup>坪</sup>	六五八、六五二・四 <sup>円</sup>	四・四七 <sup>円</sup>

三 控除せらるべき地價

有租地差引減步面積	坪當平均地價	控除地價
二、四六八・八 <sup>坪</sup>	四・四七 <sup>円</sup>	九、六七二・二 <sup>円</sup>

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	配賦地價額	指數千個當配賦地價額
九三、六六、八二 <sup>個</sup>	五五八、九〇・二 <sup>円</sup>	五・九六九七三 <sup>円</sup>

次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の區分に従ひ地目別に掲記すれば左の如し。

整理前後土地面積及筆數調

有租地	區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引	
			臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減
宅地			一四九、〇一・四 <sup>坪</sup>	三七〇	一三三、六三三・七 <sup>坪</sup>	一四七	一	一七、七四二・七 <sup>坪</sup>	二七	一
内道路			一三三・〇〇							
小道路			一七五・〇〇							



次に整理前後の土地を有租地、免租地及公共用地の区分に従ひ地目別に掲記すれば左の如し。  
整理前後土地面積及筆數調

一三、四八・八三 <sup>坪</sup>	四・四七 <sup>坪</sup>	九九、六七・二二 <sup>坪</sup>	九三、六六・八二 <sup>坪</sup>	五八、九六・二六 <sup>坪</sup>	五・九六九八七三 <sup>坪</sup>
-----------------------	-------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

區分	地目	從前の土地		整理後の土地		面積差引		筆數差引			
		臺帳面積	筆數	實測面積	筆數	増	減	増	減		
有租地	宅地	内道路	一四九、〇一・四二 <sup>坪</sup>	三三〇	一三三、六三・七二 <sup>坪</sup>	四八七	一坪	一七、七四・七三 <sup>坪</sup>	二七	一	
		外道路	二七五・〇三	一							
		民有免租地	道路	一九五・二四	四				一九五・二四	一	四
		市有免租地	道路	二、二六・四四	五七				二、二六・四四		五七
			河岸地	六、六三・四三	二〇	六、五〇・六四	三三		四四・九〇	三	一
			公園地	一、七三・〇〇	五				一、七三・〇〇		五
			下水地	一、八六・〇〇	一	一、〇八・二〇	一		一〇・八〇		一
			筒敷地	五〇・二二	一	四四・七二	二		七・五〇		一
			職業紹介所敷地	九六・〇〇	一	七〇・七四	一		二五・二六		一
			社會用地	一七・〇五	一				一七・〇五		一
計	計	二、五〇・二三	八六	七、八七・二九	七		四、六四・九五		三		
	外下水敷	二、二二	一						一		
區有免租地	公立學校敷地		二、二〇・〇〇	四	二、一八・五・四二	二	七五・四二		二		
		公立學校敷地	一、九六・六七	六	二、一八・〇〇	一	二二〇・三三		五		
		公立學校敷地	三四一・〇三	二	三四一・〇四	一	〇・〇一		一		
府有免租地	計		二、三〇・七〇	八	二、三二・〇四	二	二一〇・三四		六		
		計									

第五十三地區 甲 整地



合 計	公共用地					國有免租地				
	外道 下水 敷	内道 道路	共同 物揚 場	公園 地	溝渠 運河 河川 道路	計	小社 地	敷地 電話 局	官用 地	官有 地
二二,三〇五・八〇	三三,一〇〇・〇〇	二二,三〇〇・〇〇	二七五・〇〇	二二	二二	三三,一〇〇・〇〇	三,〇〇四・三六	三六〇〇	四七〇・〇〇	二,一七四・〇八
四八三	一	一	一	一	一	一〇	一	一	二	六
二二八,三〇・二四	七三,二〇三・〇〇	一,八〇〇・〇七	三二・九五	一五,五五・八八	五五,六五・二〇	八三九・六	三六〇〇	四七二・二	三四・五	一
五三	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一
三三,〇八・八三	三,七五・九六	一,八〇〇・〇七	三二・九五	一,〇七・九二	三,六四二・〇二	七二	七二	一	一	一
二九,二九・六三	四,四六・九三	一	一	四,四六・九三	一	二,一〇一・七九	一	二七・七	二,一七四・〇八	一
一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	七	一	一	一	六

乙

建物其他の工作物移轉

第一章 整理前の建物



## 乙 建物其の他の工作物移轉

### 第一章 整理前の建物

#### 第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は十六萬六千五百八十五坪九合九勺にして、之に所在する建物の總棟數は六千四十三棟此の延坪數十萬三千四十八坪九合三勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は二十七坪五合七勺、同建物延坪數は十七坪五勺なり。

前記總棟數の内移轉を要するもの五千八百五十七棟にして、爾餘の百八十六棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯	
	棟數	延坪數	要移轉棟數	要移轉延坪數	不要移轉棟數	不要移轉延坪數
木造建物	五、九七三	九七、八六〇坪	二	四、五〇〇坪	一	四、二七四・一〇坪
石造家建	二	四・五〇	二	四・五〇	一	一・〇〇
同 階建	一	三三・〇〇	一	三三・〇〇	一	三三・〇〇
煉瓦造家建	三	二六・〇九	三	二六・〇九	一	三・〇〇
同 階建	五	四六・五〇	五	四六・五〇	一	一・〇〇
鐵骨造家建	三	一、五八・五〇	三	一、五八・五〇	一	一・〇〇
同 階建	三	一、七〇・五〇	三	一、七〇・五〇	一	一・〇〇
鐵筋コンクリート造家建	二	二五・〇〇	一	一・二五	一	二三・七五
同 階建	四	一、三三・六〇	一	一、三三・六〇	一	一、三三・六〇

第五十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第五十三地區 乙 建物其他の工作物移轉

同	三階建	一	三七・七五	一	六〇八	三七・七五
計	六、四三三	一〇三、〇四八・九三	五八・七	九七、四三・七	一八六	五、八五・二〇
建物總數に對する百分比	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	六・九二	九四・七	三・〇八	五・六三

要移轉建物の用途を大別すれば、住宅二千八百七十一棟の四割九分を最高とし、商店千七百七十六棟の二割之に次ぎ、以下工場、倉庫、飲食店等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	棟數	要移轉總棟數に對する百分比	轉建		一棟平均坪數
			延坪數	坪數	
官署	二八	〇・二四	九七・八四	三・四	二・三三
官立學校	一八	〇・三	九三・三	五・〇〇	一・九〇
社會	一	〇・〇二	六・二五	六・二五	一・四四
神會	六	〇・〇二	二・七五	二・七五	二・七五
敎堂	一	〇・〇一	一三・九一	一三・九一	一三・三三
醫院	七	〇・〇九	二〇・三	二〇・三	一・一八
銀行	三	〇・〇三	三六・六二	三六・六二	一六・六
事務所	一	〇・〇一	二・七五	二・七五	二・七五
住宅	五	一・〇一	一〇三・五	二〇・七	一七・〇一
旅館	二、八七	四九・〇二	三六、二八・三	二二・〇五	一三・三
寄宿舎	一	〇・〇二	二・〇五	二・〇五	二・〇五
木賃宿	三	〇・〇五	五・七五	五・七五	一七・五
商店	一、二六	一四・七	三、七九・五	一九、〇四・五	四・四八
店	九	二〇・七	一八、〇四・五	一九、〇四・五	一六・一九

料飲觀席	九	〇・五	一八三・〇	一〇・三六
料理食物	三	一・五七	一、五三・九五	一六・八九
店場	五	〇・〇五	三八・七	一〇九・四二
亭	三	〇・〇八	二八・〇三	五・〇九



商木寄旅	二〇・二五	二〇・二五	二〇・二五
賃宿	一・四七	三、七九・五三	一七・五八
店宿舎館	一〇・〇七	一九、〇四・五三	四三・四八
	一、二六		一六・一九
	六		
	三		
	一		

料飲店	九	〇・二五	一八三・二〇	一〇・三六
食物店	九	一・五七	一、五三・九五	一六・八九
觀物亭	三	〇・〇五	三・八・二七	一〇九・四二
娛樂場	五	〇・〇八	二八〇・四三	五・〇九
武藝場	三	〇・〇五	四・八・三	一四・九四
質屋	二	〇・〇三	三・八・八	一五・九四
浴場	四	〇・〇七	六九・七五	一七・四四
理髮店	一八	〇・三一	九〇六・一四	五〇・三四
運送客	二八	〇・四八	二七・二七	九・九〇
工場	一〇	〇・一七	一一四・七〇	一・四七
小工場	三三	六・七一	一三、九五・〇五	三五・五三
倉庫	三七	六・四四	六、七九・四八	一七・八二
倉庫	二〇	三・四三	五、九六・〇八	二九・八三
自動車	八	〇・一四	一八・四六	三・六八
計	四五	七・七〇	二、七九・二〇	六・一八
其他	五、八七	一〇〇・〇〇	九、三四・七三	一六・六〇

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て假設建築物として新築、改築、増築等の爲東京府知事に許可申請を爲したるもの建物千四百八十四棟、内許可せられたるもの千八十九棟、許可せられざりしもの三百九十五棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し事業施行の必要上移轉を要したるもの三百四棟なり。

第二章 移轉計畫

第五十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第五十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

本地區は之を百四十九箇の移轉群に分ち、大正十五年三月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査済の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年八月一先移轉計畫を終了したるが、其の後移轉實施に伴ふ換地杭打の結果、當初移轉を要せざるものとし前記計畫より除外せし建物中移轉の要あるものを發見し、隨時現状調査の上計畫を爲したる爲、最後の移轉計畫は同四年九月に及びたり。而して要移轉建物五千八百五十七棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの二千九百八十三棟にして五割一分を占め、之に次ぐは曳方の千三百一棟にして二割二分に相當し、他は移築一部除却、移築、据置一部除却、曳方一部移築一部除却の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數				計
	曳方一部除却	曳方一部移築	移築一部除却	据置一部除却	
木造平家建物	一、二七三	二、九七〇	二	九五	五、七九三
石造平家建物	—	—	—	—	—
同 煉瓦造平家建物	—	—	—	—	—
同 鐵骨造平家建物	—	—	—	—	—
同 鐵筋コンクリート造平家建物	—	—	—	—	—
計	一、二七三	二、九七〇	二	九五	五、七九三
要移轉總棟數に對する百分比	二一・三	五〇・九	〇・三	一・九	一〇〇・〇

前記計畫に依るときは要移轉建物五千八百五十七棟此の延坪數九萬七千二百四十三坪七合三勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於て一割四分一厘の縮少を來し八萬三千五百二十八坪一合九勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造平家建物	五、七九三	九三、六〇四・三坪	五、七九三	八〇、一五三・三坪	—	一三、四五一・〇坪



前記計畫に依るときは要移轉建物五千八百五十七棟此の延坪數九萬七千二百四十三坪七合三勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於て一割四分一厘の縮少を來し八萬三千五百二十八坪一合九勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引減	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造平家建	五、七九三	九三、六〇四・三元 <sup>坪</sup>	五、七九三	八〇、二五三・三元 <sup>坪</sup>	—	一三、三四一・〇一 <sup>坪</sup>
石造平家建	二	四・五〇	二	三・五〇	—	一・〇〇
同階建	一	三五・〇〇	一	三五・〇〇	—	—
煉瓦造平家建	二	二二・〇〇	二	二〇・五・八	—	一七・二六
同階建	五	四六・五〇	五	四六・五〇	—	—
鐵骨造平家建	三	一、五八・五〇	三	一、三七・八六	—	一六・六二
同階建	三	一、七八・五〇	三	一、七二・八七	—	六・六三
鐵筋コンクリート造平家建	一	一・一五	一	一・一五	—	—
計	五、八五七	九七、二四三・七三	五、八五七	八三、五八・九	—	一三、七五四・八三

要移轉建物五千八百五十七棟中林町三丁目四十、四十二番所在建物十一棟は東京市中和尋常小學校々々舎新築關係に依り、急速移轉を要したるを以て之を一般計畫より分離し大正十五年四、五の兩月に移轉工事を實施することとし、爾餘の五千八百三十二棟の移轉實施期間を大正十五年九月より昭和三年十二月迄の二年四月とし、大正十五年に於て四十四棟、昭和二年に於て千六百七十棟、昭和三年に於て四千百十八棟の工事を完了することに豫定したり、尙曩に不要移轉の豫定なりし建物の内移轉實施に伴ふ換地杭打の結果、要移轉となりたる建物十四棟ありしを以て、之等に對しては翌四年十月迄に順次完了することに豫定せり。

### 第三章 移轉手續

#### 第一節 移轉命令

第五十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉



大正十五年七月三十一日第一次移轉命令として富川町の一部第三百三十四移轉群の建物十三棟に對し移轉命令十一通、同通知十通を發し爾來引續き發令に努め、昭和二年九月二十八日富川町の一部第八移轉群及第九移轉群の發令を最後とし、要移轉建物五千八百五十七棟の内協議並直轄移轉に依る九十八棟を除きたる五千七百五十九棟及工作物に對し移轉命令五千四百三十五通、同通知五千二百六通を發し茲に全部の發令を終へたり。

### 第一 協議移轉

#### 第二節 協議並直轄移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物九十二棟、工作物五十件あり、内三十棟は官公署の所有にして事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物六十二棟及工作物全部は民有にして、内建物三十一棟は東京市中和尋常小學校並同菊川尋常小學校及東京府立實科工業學校々舍新築の爲急速移轉を要したるもの、他の建物三十一棟及工作物五十件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

右の外一旦移轉を了したる建物にして其の敷地が橋臺地々揚に伴ひ宅地造成を要したる爲、更に本手續に依り二重移轉を爲したるもの二十棟あり、之を橋梁別に示せば左の如し。

菊花橋 二棟、新豎川橋 一棟、西豎川橋 一棟、菊柳橋 三棟、菊川橋 九棟、東元橋 四棟、  
第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物六棟あり、右は何れも本市保健局の所管にして其の希望に依り直轄施行を爲したるものなり。

## 第四章 損害補償

### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年八月建物及工作物の新築費

並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定をなし大正十五年十一月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年四月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること五十三回(變更案の決定を含む)にして同年五月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十三回に



第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、即ち大正十五年八月建物及工作物の新築費

並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定をなし大正十五年十一月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和三年四月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること五十三回(變更案の決)にして同年五月一先終了したるが、其の後に至り既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十三回に及び、翌四年五月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は左表の如く三百三十八萬四千三百三十一圓三十錢にして、内國負擔額十七萬四千六百六十九圓八十五錢、市負擔額三百二十一萬百六十一圓四十五錢なり。

種別	建物棟數	延坪數	補償金	内訳	
				區分	金額
一般移轉	五、八七	九七、四三・七三 <sup>坪</sup>	三、七六、三五・一四 <sup>円</sup>	建物移轉料	一、九四、一七・三五 <sup>円</sup>
				工作物移轉料	四二、四九・二四
				造作移轉料	八五、五九・〇六
				動産移轉料	二八四、九八・八五
				休業補償	四〇、七一・二二
				雜費	二四一、三六・五三
				計	三、三六、二五・一四
橋臺地々揚に依る 二重移轉	二〇	四八六・五三	八、〇九六・二六	建物移轉料其他	八、〇九六・二六
合計	五、八七	九七、七〇・二五	三、三八四、三三・三〇		三、三八四、三三・三〇
					一六・六四
					三三・六三

第四十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し

種別	棟數	坪數	一棟當延坪數	新築費	坪當單價
木造建物	五、七三	九三、六〇四・三 <sup>坪</sup>	一六・一六 <sup>坪</sup>	五、六〇八、〇九六・ <sup>円</sup> 四	五九・九 <sup>円</sup>
石造平家	二	四・五〇	二・二五	八四三・〇〇	一八七・三三
同階	一	三五・〇〇	三五・〇〇	四、〇九五・〇〇	一七〇・〇〇
煉瓦平家	二	三三・〇九	一〇・六二	三三、六三・九四	一五〇・七三
同階	五	四・五〇	九・三〇	一四、九五・五〇	三〇九・五九
鐵骨平家	三	一、四八・五〇	四九・九五	一七、六五・五三	七五・九八
同階	三	一、七八・五〇	五九・五〇	二二、四七・六一	二四・九八
鐵筋コンクリート造平家	一	一・二五	一・二五	七五・〇〇	五九・〇〇
工作物	五、八五七	九七、四三三・三	一六・六〇	八、三二、四八三・六	八四・五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十五年十一月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し昭和三年五月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は翌四年五月に及びたり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は大正十五年三月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額三百三十四萬七千二百六十七圓三十四錢にして、内國負擔額十七萬四千六百九十九圓八十五錢、市負擔額三百十七萬三千九十七圓四十九錢なり。

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、大正十五年四月より昭和四年十月迄に完了する豫定な



補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は大正十五年三月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額三百三十四萬七千二百六十七圓三十四錢にして、内國負擔額十七萬四千六百九十九圓八十五錢、市負擔額三百十七萬三千九百九十九圓四十九錢なり。

## 第五章 移轉實施

### 第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、大正十五年四月より昭和四年十月迄に完了する豫定なりし處大正十五年及昭和二年に於ては豫定より遅れたりしが、昭和三年及同四年に於ては極めて順調の進捗を見たるを以て、最終工期たる昭和四年十月迄に工事完了の豫定なりし五千八百五十七棟の内五千八百五十棟は豫定期間中に、殘餘の七棟は同年十二月に、建物以外の工作物も亦同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅るゝこと二箇月にして全部の完了を見たり、之を移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの五千七百五十九棟(代執行を爲したるもの十棟を含む)協議に依りたるもの九十二棟、直轄工事に依りたるもの六棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十五年 昭和元年	三月	—	—	—	—	—	—	—	—
	四月	—	—	—	—	—	—	—	—
	五月	—	—	—	—	—	—	—	—
	六月	—	—	—	—	—	—	—	—
	七月	—	—	—	—	—	—	—	—
	八月	—	—	—	—	—	—	—	—
	九月	—	—	—	—	—	—	—	—
	十月	—	—	—	—	—	—	—	—
	十一月	—	—	—	—	—	—	—	—
	十二月	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—

第五十三地區

乙 建物其の他の工作物移轉

六一五



昭和三年												昭和二年											
十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
四	一	六	四	二	三	一	一	三	一	一	一	四	一	二	二	一	五	三	四	七	四	七	一
五、八四四	五、八四〇	五、八三九	五、八三三	五、八三三	五、八二九	五、八二七	五、八二四	五、八二四	五、八二三	五、八〇一	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七九六	五、七九六	五、七九四	三、五九九	三、〇七〇	二、二八八	一、九四八	一、五〇一	七四	一八三
四	一	六	四	二	一	四	三	一	一	一	一	四	一	二	二	一	五	三	四	七	四	七	一
五、八四四	五、八四〇	五、八三九	五、八三三	五、八三三	五、八二九	五、八二七	五、八二四	五、八二四	五、八二三	一、〇〇一	八九五	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七九六	五、七九六	五、七九四	三、五九九	三、〇七〇	二、二八八	一、九四八	一、五〇一	七四	一八三
三	二	四	二	二	一	三	四	六	七	八	七	三	二	二	一	五	三	四	七	四	七	一	一
五、八四三	五、八四〇	五、八三九	五、八三七	五、八三七	五、八二九	五、八二七	五、八二四	五、八二四	五、八二三	四、七五七	四、〇三三	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七九六	五、七九六	五、七九四	三、五九九	三、〇七〇	二、二八八	一、九四八	一、五〇一	七四	一八三
一	二	一	五	二	一	三	四	六	七	八	七	一	二	二	一	五	三	四	七	四	七	一	一
五、八四八	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	五、八四七	二、五七一	二、〇二六	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七九六	五、七九六	五、七九四	三、五九九	三、〇七〇	二、二八八	一、九四八	一、五〇一	七四	一八三

六五四三二一  
月月月月月月

一 一 二 一

五、八四八  
五、八四八  
五、八四七  
五、八四七  
五、八四五

一 一 二 一

五、八四八  
五、八四八  
五、八四七  
五、八四七  
五、八四五

一 一 二 二

五、八四八  
五、八四八  
五、八四七  
五、八四七  
五、八四五

一 二 一 五 二 一

五、八四八  
五、八四七  
五、八四七  
五、八四四  
五、七九四  
五、六七七



十二月	十一月	十月	九月	八月
四	一	六	四	二
五、八四四	五、八四〇	五、八三九	五、八三三	五、八二九
四	一	六	四	二
五、八四四	五、八四〇	五、八三九	五、八三三	五、八二九
三	二	四	二	二
五、八四三	五、八四〇	五、八一九	五、七七七	五、六五九
二	三	〇	六	二
五、八四〇	五、四四〇	五、〇七〇	四、四五八	三、八六八
二	四	〇	五	七
五、八四〇	五、四四〇	五、〇七〇	四、四五八	三、八六八

昭和四年				
十二月	十一月	十月	九月	八月
一	二	一	三	五
五、八四五	五、八四五	五、八四七	五、八四七	五、八四八
一	二	一	三	五
五、八四五	五、八四五	五、八四七	五、八四七	五、八四八
二	二	一	三	六
五、八四五	五、八四五	五、八四七	五、八四七	五、八四八
二	三	一	二	一
五、八四五	五、八四五	五、八四八	五、八四八	五、八四八
二	三	一	二	一
五、八四五	五、八四五	五、八四八	五、八四八	五、八四八
二	三	一	二	一
五、八四五	五、八四五	五、八四八	五、八四八	五、八四八

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を經過し、現場係員より工事實施方に付、屢次誘導督勵を爲すも容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したる人員千八十五人、建物千四百二十二棟ありたり。  
前記の内戒告後も尙其の義務を履行せざる爲代執行を爲したる人員九人、建物十棟あり、右は何れも義務者の怠慢に因るものなり。

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て大正十五年九月林町二丁目四十四番に移動式住宅十二棟、同物置三棟を設置し同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て順次増設を爲し、大部分の工事終了迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帯數等を示せば左の如し。

第五十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉



設置場所	棟數		設置撤去		期間		住宅		内容			
	住宅	物置	年月	年月	住宅	物置	世帯數	人員	世帯數	人員		
本所區林町二丁目四十四番	三	三	大正二五、九	昭和三、六	自大正二五、九	同	九〇	七五〇	五七〇	四七五〇	二三	七・七
同 菊川町一丁目五十番	〇	一〇	大正二五、三	昭和三、四	自大正二五、三	同	一三四	四・四七	九三三	三・一〇	四五	四・五〇
同 林町二丁目七十五番	五	一	昭和二、一	昭和三、一	自昭和二、一	上	三	〇・六〇	四	九・二〇	一	一
深川區富川町二番	四	一	昭和二、五	昭和二、九	自昭和二、五	上	四	一・〇〇	元	七・二五	一	一・〇〇
本所區林町二丁目七十八番	三	一	昭和三、一	昭和三、三	自昭和三、一	上	一四	四・七	一〇三	三・三三	一	一
同 菊川町一丁目二十九番	一六	一	昭和三、八	昭和四、三	自昭和三、八	上	三	二・〇六	一七四	一〇・八	一	一
計	古	古					二六	三・九	一、八五	二六・五〇	充	四・九三

第四節 宅地造成

本地區は地勢一般に低濕にして従前に比し低地を換地として指定せられたるものあり、且地區の三方に堅川、小名木川、大横川ありて之等河川の護岸修築或は繼足工事に伴ひ宅地造成工事を要せる箇所尠からず、工事件數百九十七件四百九箇所に及べり、而して工事種別は盛土工最も多く百八十八件四百箇所、其の他土留工八件八箇所(内大谷石積工三件三箇所此の面積は七十六坪六五、板柵工五件五箇所、此の

面積百三十八坪四八假下水工一件一箇所なり。

工事著手は大正十五年七月深川區富川町七十二番の盛土工を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和四年六月本所區徳右衛門町五十三番の土留石垣及盛土工を最後とし、百九十七件四百九箇所の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は一萬七千七百五十四坪五合八勺なり。



本地區は地勢一般に低濕にして従前に比し低地を換地として指定せられたるものあり、且地區の三方に豎川、小名木川、大横川ありて之等河川の護岸修築或は繼足工事に伴ひ宅地造成工事を要せる箇所尠からず、工事件數百九十七件四百九箇所に及べり、而して工事種別は盛土工最も多く百八十八件四百箇所、其の他土留工八件八箇所(内大谷石積工三件三箇所此の面坪七十六坪六五、板柵工五件五箇所、此の

面坪百三十八坪四八)假下水工一件一箇所なり。

工事著手は大正十五年七月深川區富川町七十二番の盛土工を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、昭和四年六月本所區徳右衛門町五十三番の土留石垣及盛土工を最後とし、百九十七件四百九箇所の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は一萬七千七百五十四坪五合八勺なり。

前記の外菊花橋、新豎川橋、西豎川橋、菊柳橋、菊川橋、東元橋の橋臺地々揚に因る宅地造成工事九件十二箇所あり、其の工事種別は盛土工八件十一箇所、土留工一件一箇所(板柵工)にして昭和三年五月より同六年二月迄に橋梁工事の進捗に伴ひ工事を施行したり、之に因る宅地造成完了總面積は四百三十坪五合五勺なり、以上の工事狀況を表示すれば左の如し。

一般宅地造成工事狀況

工事種別	工事 工数	工事 箇所	數量	金額	内		請		譯	
					直	營	件數 箇所	數量	件數 箇所	數量
假下水	一	一	11.00 <sup>間</sup>	71.00 <sup>円</sup>	—	—	—	—	—	71.00 <sup>円</sup>
土留工	八	八	25.13 <sup>面坪</sup>	3,641.30	—	—	八	八	25.13 <sup>面坪</sup>	3,641.30
盛土工	188	188	6,043.93 <sup>立坪</sup>	74,552.85	—	—	188	188	5,733.3 <sup>立坪</sup>	70,099.23
計	197	197	—	74,602.15	—	—	197	197	—	74,602.15



工事種別	工事		數量	金額	直		數量	金額	請		數量	金額
	件數	箇所			件數	箇所			件數	箇所		
土留工	一	一	面坪 三・七三	二・八四	一	一	一	一	一	面坪 三・七三	二・八四	
盛土工	八	二	立坪 三三・六〇	三、四九・三二	一	一	五・二四	五・五二	七	立坪 三〇八・四六	三、三八・八一	
計	九	三	—	三、四六・二六	一	一	—	五・五二	八	—	三、四〇五・六六	

丙 地下埋設物其の他工作物整理

第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本技管線處理電柱六百八十本、管線路二萬五千九百九十一、其の他百二箇所、



## 丙 地下埋設物其他工作物整理

### 第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱六百八十本、管線路二萬五百九間一、其の他百二箇所一地區集計電柱三百三十五本、管線路一萬六千五百五十間二、應急整理一工事電柱二十八本、管線路百九十六間五、其の他九十六箇所、假本整理電柱三百十七本、管線路三千七百六十二間四、其の他六箇所及私有管線處理一萬五百二十六件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事千三百五十一件、内道路後修を要したるもの四百五件なり、之を事業別に見るに水道工作物管線路七千八百八十五間二、其の他二千四百三十二件及九十一箇所整理費十二萬九千九百八十四圓九十一錢、市電工作物管線路八十間其の他二箇所整理費二百三十二圓十四錢、東電工作物電柱六百八十本、管線路千二百三十間三、其の他六千七百七件及九箇所整理費九萬七千六百二十六圓二十七錢、瓦斯工作物管線路一萬千三百十三間六、其の他千三百八十七件整理費七萬四千七百五十二圓二十六錢なり、而して本地區に於ける整理費は總計二十九萬四千五百九十五圓五十八錢にして、内私有管線の十三萬二千四百三十一圓九十錢を最高とし、一地區集計の十一萬九百七十一圓四十二錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

#### 工事一覽

種 別	市 水 道 局		市 電 氣 局		東京電燈株式會社		東京瓦斯株式會社		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
電 柱	1	—	1	—	35本	3,896.80円	1	—	35本	3,896.80円

第五十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



第五十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

種別	昭和十五年		昭和二十年		昭和二十三年		昭和二十四年		昭和二十五年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區計	六、〇四七・八	五、七六四・五	—	—	八二一	二、〇三三・九	九、六九一	三、五二四・五	一六、五五〇・二	二九〇、〇七・五	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
應急	六・五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
整理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
私有	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
道路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後修	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	二、四三三	七、八八五・二	二、四三三	五、四三六・三	六、七七五	二、四三三・〇〇	一、三三七	三、五三九・六	一〇、五二六	三〇、四二二・四	二、四三三

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。  
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	昭和十五年		昭和二十年		昭和二十三年		昭和二十四年		昭和二十五年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
電柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
管線路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。  
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	昭和十五年		昭和二十年		昭和三十年		昭和四十年		昭和五十年		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
集一地區 計			五本 三、四三・八二		三六本 一四、二一・二四		三七本 二、二九・八八		一七本 一、〇四・九四		三五本 三、〇八・八八
電柱			九本 四、七六・〇三		一四本 四、三〇・六四		八本 二、七二・七		二六本 一、六五・〇二		二八本 九、〇七・三四
管線路			一ヶ所 六・二八		一ヶ所 一、二五・八七		二ヶ所 五三・〇九		四ヶ所 三、〇三・六		九ヶ所 一、九六・一〇
應急 工事			六本 五、四二・二八		一四本 四、八七・六五		八本 二、七二・七		二六本 一、六五・〇二		二八本 九、〇七・三四
其他											
計			六本 二、七・五三		九本 三、八〇・二七		二本 一、二九・九七		二本 一、二九・九七		二本 一、二九・九七
假 理											
管線路											
其他											
計											
私有 管線			二、一七 二、一七・二七		八、〇三 八、〇三・四		一〇、一六 一〇、一六・六六		二、一七 二、一七・二六		一〇、五三 一〇、五三・九〇
道路 後修			四三 五、八・八四		二四 二、四二・二五		一三 一、三二・五三		九 九、〇九・二六		四〇 四、〇五・一三
合計			一、三、四・一七		三、六、五・三四		二、〇、四・一六		六、五、三・七七		二、九、五・五八
進捗 歩合 %			一		二		五		三		一〇〇

第五十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理



第五十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

國市負擔區分

種別	水	道	電		瓦	斯	計
			市	電			
一地區集計	國負擔 四,二二·二六 市負擔 四八,五三三·元	國負擔 五,七四·壹 市負擔 三,三〇一·六	一,八三三·〇二 二,〇七九·八〇	二,二九二·八二 一,三六五·八〇	二,八三三·五三 三,四七〇·五三	三,二四〇·五三 三,二四〇·五三	八,八七七·七〇 一〇二,〇九七·七二
應急整理	市負擔 三,三〇一·六	市負擔 三,三〇一·六	一,三六五·八〇	三,二四〇·五三	三,二四〇·五三	三,二四〇·五三	一〇二,〇九七·七二
假本整理	市負擔 五,四三六·九三	市負擔 五,四三六·九三	二,四三六·〇〇	三,五九一·六一	三,五九一·六一	三,五九一·六一	一〇七,四八九·九七
事業者	國負擔 四,三三〇·〇一 市負擔 四七,四九三·六三	國負擔 二,六〇八·六 市負擔 四,三三〇·〇一	七,八一九·二 二,九七一·六一	一,四〇五·〇二 一,一五二·八七	九,七九二·三 二,九七一·六一	二,九七一·六一 二,九七一·六一	一一〇,九五一·七一 一一〇,九五一·七一
私管線	國負擔 二,六〇八·六 市負擔 四,三三〇·〇一	國負擔 二,六〇八·六 市負擔 四,三三〇·〇一	七,八一九·二 二,九七一·六一	一,四〇五·〇二 一,一五二·八七	九,七九二·三 二,九七一·六一	二,九七一·六一 二,九七一·六一	一一〇,九五一·七一 一一〇,九五一·七一
道路後修	市負擔 八,三三九·六九 國負擔 六,七九一·四	市負擔 八,三三九·六九 國負擔 六,七九一·四	八,〇五三 四,〇〇九·九六	二,八六六·三三 二,一〇七·三三	一〇,八六三·三三 六,一一七·二九	一〇,八六三·三三 六,一三〇·四八	一五,五五四·二二 一四,六五二·二二
合計	市負擔 一一五,二五二·二七 國負擔 一三三,九八四·九二	市負擔 一一五,二五二·二七 國負擔 一三三,九八四·九二	二二三·二四 二二三·二四	九七,六六三·三 九七,六六三·三	七〇,八七六·七 七〇,八七六·七	七〇,八七六·七 七〇,八七六·七	二九四,五九五·五八 二九四,五九五·五八

年度別工事費支拂進捗狀況

種別	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済	計
一地區集計	一五,四〇八·三六	二六,六三三·六	三三,一〇九·六八	三五,六八九·七二		一〇九,九七一·四二
應急整理	一三,一六	一,三〇〇·六	一,六三六·六	一,三三六·五		一五,三三六·二



合計	一二五、二五・二七	二二二、二四	九七、六六・三三	七〇、八六・七四	二七九、九七・四六
市負擔	一二二、九四・九二	二二二、二四	九七、六六・三三	七〇、八六・七四	二七九、九七・四六
支拂未済					二九、五五・五八

年度別工事費支拂進捗状況

種別	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済	計
一地區集計	一五、四八・六五	一六、六三・六七	三三、二〇・六八	三三、六九・七一		一〇、九七・四二
應急整理一工事	一一三・六	一、三〇・六	一、四三・六	二、三六・九〇		五、三六・六〇
假本整理		二六・四	八、三九・一五	二、八五・九五		三〇、四一・五〇
私有管線	五五・七	四九、六六・七三	六、八三・九三	二、〇八・七七	三、三三・二〇	一三、四三・九〇
道路後修		一四八・六	七、三九・七〇	七、〇八・五〇	九〇九・六	一五、五四・二二
進捗歩合%	一六、〇三・九一 五	一六、〇三・二六 二七	一七、二五・一〇 四三	一六、〇三・八三 一四	四、三〇・四八 一	二四、五五・五八 一〇〇

## 第二章 本枝管線處理

### 第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱三百三十三本、管線路一萬六千六百六十六間五及之に關係せる各種工作物にして此の整理費十二萬六千二百十六圓二十錢なり、而して假契約は瓦斯工作物に關し昭和二年六月九日締結したるを、工事は水道工作物に關し同年八月七日著手したるを、本契約は瓦斯工作物に關し同年十二月十九日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事状況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	昭和 二、 七、 六	昭和 三、 三、 一六	昭和 二、 八、 七	昭和 五、 二、 六

第五十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第五十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

六二六

東京電燈株式會社	昭和 二、八、三	昭和 三、四、八	昭和 二、九、三	昭和 五、四、五
東京瓦斯株式會社	昭和 二、六、九	昭和 二、三、九	昭和 二、八、三	昭和 五、三、五

工事施行中設計變更を爲したる件數十八件ありたる結果、電柱に於て二本増加したるも管線路に於て百十六間三減少したる爲、工事費に於て一萬五千二百四十四圓七十八錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電		柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	三三本	一三、八五、六七	一六、六六、五	一〇、三六、〇五			二六、二六、〇〇
設計變更後(精算)	三五	二〇、八九、八八	一六、五〇、二	九、〇七、二五			二〇、九七、〇〇
差引増△減	二	△ 二、九六、七九	△ 一六、三	△ 二、二八七、九			△ 一五、二四、六

尙工事並支拂狀況等を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	三五	三、三三、八二	九〇九、六	四、七八、〇二			八、二二、八四	七
昭和三年	二六	一四、二一、二四	五、八九、八	二七、一九、四〇			四二、三〇、六四	三七
昭和四年	七	二、一九、八八	九、八〇、八	五八、一八、三			六〇、四八、〇〇	一五
昭和五年	一七	一、〇四、九四	一	一			一、〇四、九四	一
計	三五	三〇、八六、八八	一六、五〇、二	九〇、七、二五			一四〇、九七、〇三	一〇〇

支拂狀況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
昭和二年	一、三三、六	一四、七五、七〇	一五、四八、三	一四



昭 和 五 年 計	昭 和 四 年	昭 和 三 年	昭 和 二 年
三三五	一七	二六	五
二〇、八九八・八八	一、〇四四・九四	一四、二一・二四	三三三・〇二
一六、五五〇・二	九、八〇〇・八	五、八九・八	九、九・六
九〇、〇七二・四	一	二七、一〇九・四〇	四七六・〇二
一一〇、九七三・四三	一、〇四四・九四	六〇、四八四・〇〇	八三二・八四
一〇〇	一	五、一五	七

支拂狀況

昭 和 五 年 計	昭 和 四 年	昭 和 三 年	昭 和 二 年	年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
八、八七・七〇	二、八五・二〇	二、六五・六	二、三三・〇八	昭 和 二 年	一、三三・六	一四、一七五・七〇	一五、四八・三六	一四
二、八五・二〇	二、六五・六	二、三三・〇八	二、三三・〇八	昭 和 三 年	二、三三・〇八	二四、五三〇・五九	二六、六三・六七	二四
二、八五・二〇	二、六五・六	二、三三・〇八	二、三三・〇八	昭 和 四 年	二、六五・六	三〇、五五・九一	三三、一〇九・六八	三〇
二、八五・二〇	二、六五・六	二、三三・〇八	二、三三・〇八	昭 和 五 年	二、八五・二〇	三三、八四・五一	三五、六九・七一	三三
八、八七・七〇	二、八五・二〇	二、六五・六	二、三三・〇八	計	一〇三、〇三三・七三	一、〇九七・四三	一、一〇、九七三・四三	一〇〇

負擔別對照

負 擔 區 分	市 水 道 局		東 京 電 燈 株 式 會 社		東 京 瓦 斯 株 式 會 社		計	
	契 約 金 額	精 算 金 額	契 約 金 額	精 算 金 額	契 約 金 額	精 算 金 額	契 約 金 額	精 算 金 額
國 負 擔 計	一、六三・九八	三、七三・二六	一、八六・一九	一、六〇三・八九	三、三三・七六	二、四七・五六	八、八五・二三	七、七三・九
幹 線 街 路 費	三、〇〇三	五、七・六四	二、六五・八七	三、三九・三三	四、六二・二五	三、五二・九四	一、二六二・二六	一、一〇九・七一
運 河 費	一、九三・一〇	四、三三・三	二、三三・六	一、八三三・〇三	三、六八・〇	二、八三・三三	一、〇九七・二九	八、八七・七〇
市 負 擔 計	一、〇七・七五	二、三、七四・〇五	一、九四・八九	一〇、三二〇・七七	三〇、八〇・三	一五、八八・三三	五、九七・二九	四、九三・一四
補 助 線 街 路 費	一、〇七・七五	二、三、七四・〇五	一、九四・八九	一〇、三二〇・七七	三〇、八〇・三	一五、八八・三三	五、九七・二九	四、九三・一四
土 地 整 理 費	一、〇七・七五	二、三、七四・〇五	一、九四・八九	一〇、三二〇・七七	三〇、八〇・三	一五、八八・三三	五、九七・二九	四、九三・一四
小 公 園 費	一、〇七・七五	二、三、七四・〇五	一、九四・八九	一〇、三二〇・七七	三〇、八〇・三	一五、八八・三三	五、九七・二九	四、九三・一四
合 計	二、〇、九七・三	五、〇、七三・九	三、八、〇三・三	一、一、六三三・〇八	一、一、〇三三・〇八	一、一、〇三三・〇八	一、一、〇三三・〇八	一、一、〇三三・〇八

補償金對照

第五十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理